

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-4

< 第8週 > マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.5-6

< インフルエンザ >

第8週の全国レベルの定点当たり報告数は49.2で、第3週以降大幅な増加が続いている



病原体情報  
P.7-8

インフルエンザウイルス 2004/05シーズン / 冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2004/05シーズン



速報  
P.9-13

初の「サル菌性赤痢」の届出 - 茨城県 / 腸チフス 2004年(2005年2月16日時点) / 2004/05シーズンのB型インフルエンザウイルス分離状況 - 札幌市



海外感染症情報

< 今週は該当記事はありません >



感染症の話  
P.14-17

< インフルエンザ > 「一般のかぜ症候群」とは分けて考えるべき「重くなりやすい疾患」であり、いまだ人類に残されている最大級の疫病である



読者のコーナー  
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(8週)  
P.18-24



8週のデータ  
P.25-36



## 発生動向総覧

\*「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(平成15年11月5日施行)により、対象疾患、分類が一部変更されました(2003年第43号「速報」参照)。

<第8週コメント> 3月2日集計分

### 全数報告の感染症

注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が、集計の期日以降に届くこともあります。それらについては、発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。宜しく御理解下さい。

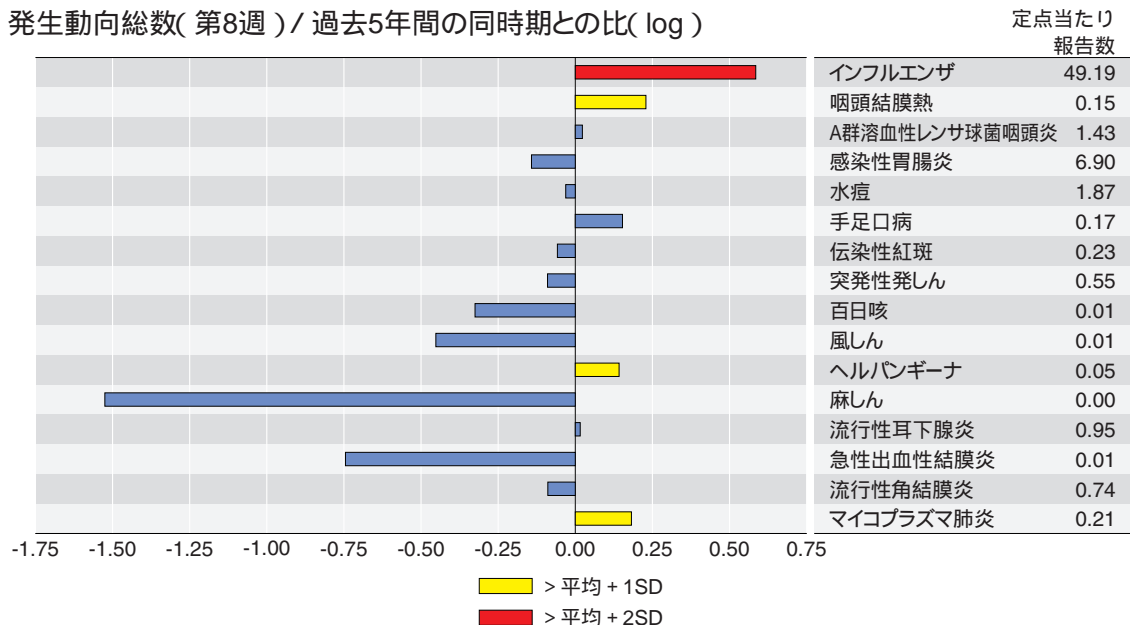
- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢 4例(推定感染地域: 国内2例、インドネシア1例、インド1例)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 4例(うち有症者3例)
  - 血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(1例)、O26 VT1(1例)、O111 VT1(1例)、その他1例
  - 年齢: 10歳未満(1例)、20代(3例)
- 4類感染症: オウム病 1例(推定感染源: セキセイインコ)
  - デング熱 1例(推定感染地域: インドネシア)
  - マラリア 1例(三日熱\_\_推定感染地域: ブラジル)
  - A型肝炎 2例(推定感染地域: 国内1例、不明1例)
- 5類感染症: アメーバ赤痢 4例
  - 推定感染地域: 国内3例、中国1例
  - 推定感染経路: 性的接触2例(異性間1例、同性間1例)、不明2例
  - ウイルス性肝炎 2例
    - (ともにB型\_\_推定感染経路: とともに性的接触(異性間))
  - クロイツフェルト・ヤコブ病 1例(孤発性)
  - 後天性免疫不全症候群 12例(無症候10例、AIDS 1例、その他1例)
    - 推定感染経路: 性的接触9例(異性間1例、同性間8例)、不明3例
    - 推定感染地域: 国内10例、不明2例
  - ジアルジア症 1例(推定感染地域: パキスタン)
  - 梅毒 3例(早期顕症II期1例、晩期顕症1例、無症候1例)
  - バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1例
    - (遺伝子型: 不明\_\_菌検出検体: 尿)
  - 急性脳炎 1例(病原体不明(4歳))

(補)他にウイルス性肝炎2例の報告があったが、削除予定。また、昨年分の報告遅れとして急性脳炎1例(病原体不明(20代))、本年分の報告遅れとして、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例(60代、死亡)、急性脳炎3例(B型インフルエンザウイルス1例(1歳)、インフルエンザウイルス1例(10代)、病原体不明1例(70代))の報告があった。

## 定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第8週)/過去5年間の同時期との比(log)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

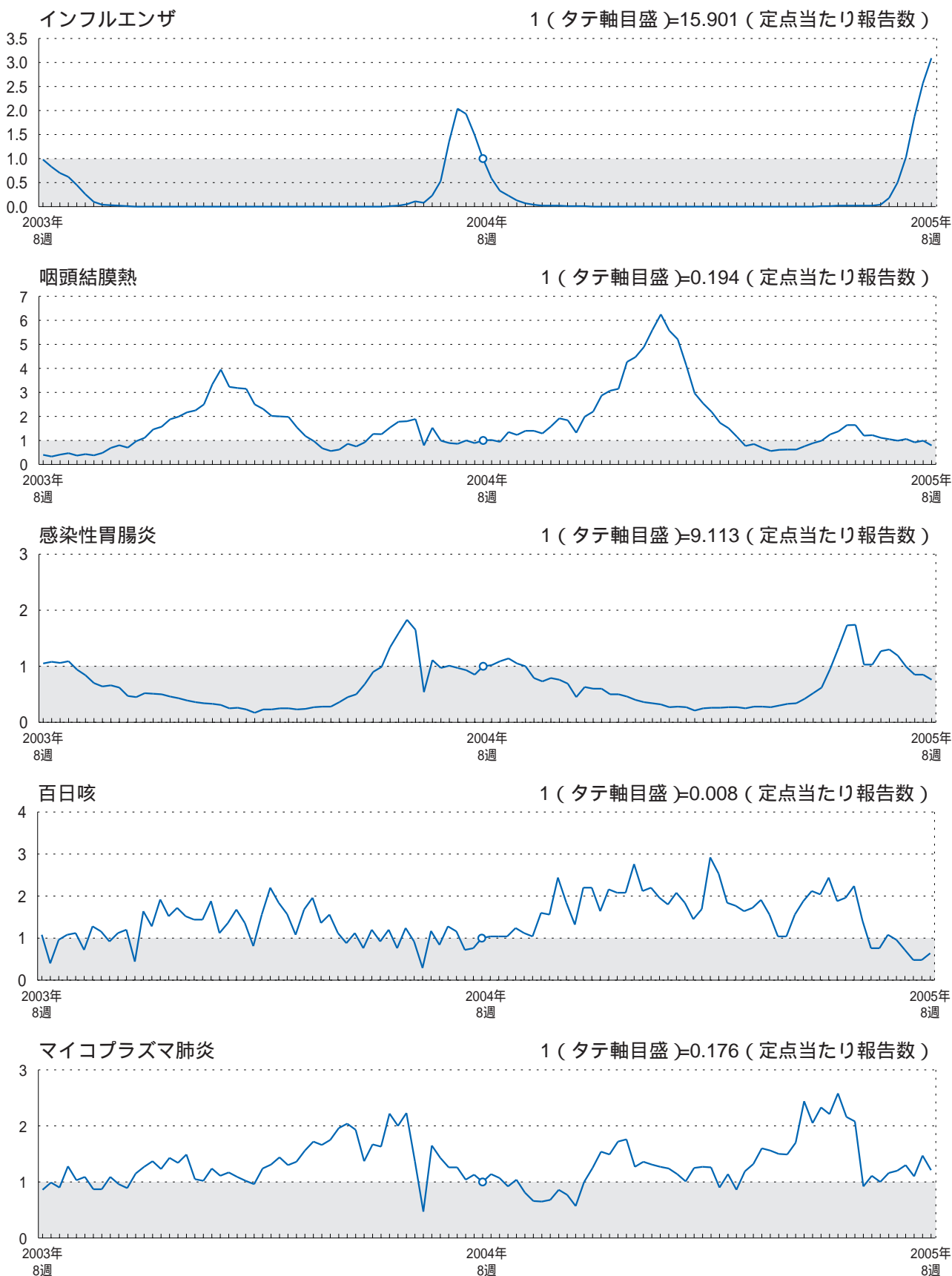
**インフルエンザ定点報告疾患** : 定点当たり報告数は6週間連続で大幅な増加が続いており、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別では宮崎県(72.4)、新潟県(70.8)、長野県(69.7)、山口県(69.2)、福井県(68.4)、佐賀県(65.3)、愛知県(64.1)、熊本県(62.7)、石川県(62.5)が多い。

**小児科定点報告疾患** : 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では大分県(0.92)、福井県(0.52)、熊本県(0.42)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は微増した。都道府県別では山形県(3.3)、石川県(3.1)、山梨県(2.7)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では福井県(20.1)、宮崎県(12.3)、宮城県(12.3)が多い。水痘の定点当たり報告数は微減した。都道府県別では沖縄県(5.9)、大分県(4.0)、宮崎県(3.8)が多い。手足口病の定点当たり報告数は微減した。都道府県別では徳島県(1.32)、香川県(0.59)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は微増した。都道府県別では佐賀県(0.87)、福岡県(0.75)が多い。百日咳の定点当たり報告数は微増した。都道府県別では愛媛県(0.08)、秋田県(0.06)が多い。風しんの定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では滋賀県(0.06)、青森県(0.05)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は増加した。過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では熊本県(0.54)、岡山県(0.20)、宮崎県(0.19)が多い。麻しんの定点当たり報告数は微減した。都道府県別では滋賀県(0.03)、大阪府(0.02)が多い。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は微減した。都道府県別では、福井県(6.2)、佐賀県(2.8)、福岡県(2.6)が多い。福井県では2004年の第42週以降、高値が続いている。RSウイルス感染症はゼロ報告を含めて37都道府県から79例の報告があり、報告数は減少した。年齢別では1歳以下が全体の70%である。

**基幹定点報告疾患** : マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少した。しかし、過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では山口県(1.67)、秋田県(0.86)、埼玉県(0.78)が多い。

図. 主要疾患の過去2年間の週別定点当たり報告数の動き(第8週)

2004年第8週の定点当たり報告数を1として各週の報告数値を換算し、主要疾患の過去2年間の増減を表している。





# 注目すべき感染症

## インフルエンザ

2005年第8週における全国定点医療機関からのインフルエンザ報告数は231,596、定点当たり報告数は49.2と、第3週以降大幅な増加が続き、過去10年間で最も高かった1997/98シーズンのピーク値に近付いてきた( 図1 )。保健所地域で見ると、注意報レベルのみを超えているのが115地域、警報レベルを超えているのが457地域となり、都道府県単位で見ると、警報レベルを超えた保健所があるのは全ての都道府県( 47都道府県 )となった。また、定点当たり報告数が60.0を超えているのは宮崎県( 72.4 )、新潟県( 70.8 )、長野県( 69.7 )、山口県( 69.2 )、福井県( 68.4 )、佐賀県( 65.3 )、愛知県( 64.1 )、熊本県( 62.7 )、石川県( 62.5 )の9県に及び、50を超えているのは21道県にまで広がった。このように、全国的な流行の規模はさらに拡大した( 図2 )。

一方、第6週から7週にかけて定点当たり報告数が減少したのは埼玉県のみであったが、第7週から8週では、栃木県( 44.4 44.1 )、埼玉県( 57.8 53.6 )、千葉県( 56.8 52.7 )、東京都( 43.3 36.0 )、神奈川県( 52.8 50.4 )、三重県( 54.6 51.2 )、佐賀県( 69.3 65.3 )、宮崎県( 76.5 72.4 )、鹿児島県( 48.2 46.7 )と9都県で減少がみられた。これまで流行レベルの高かった関東、東海、九州において、ピークに達したと思われる地域が増加しつつある。

B型インフルエンザウイルスの分離報告数が半数以上を占めている状態が続いている( 本号「病原体情報」参照 )。過去10年間のインフルエンザウイルス分離状況を比較すると、B型が半数以上を占めているのは今シーズン( 2005年 )を除いて1997年のみである。他に比較的多く分離された年として( 40%以上 )1999年と2001年があげられ、いずれも流行が遷延する傾向にあったが、今シーズン程のピーク値とはなっていない( 図1、図3 )。今シーズンは大きな流行レベルとなっており、今後もインフルエンザの流行が遷延する可能性はあるため、流行状況の推移には注意が必要である。

流行の拡大に伴って、インフルエンザ脳症の報告が散見されており( IDWR全数報告の感染症：第5週、第7週、第8週参照 )、今後も症例の増加が危惧される。

図1. インフルエンザのシーズン別・週別発生状況 ( 1994/95シーズン ~ 2005年第8週 )

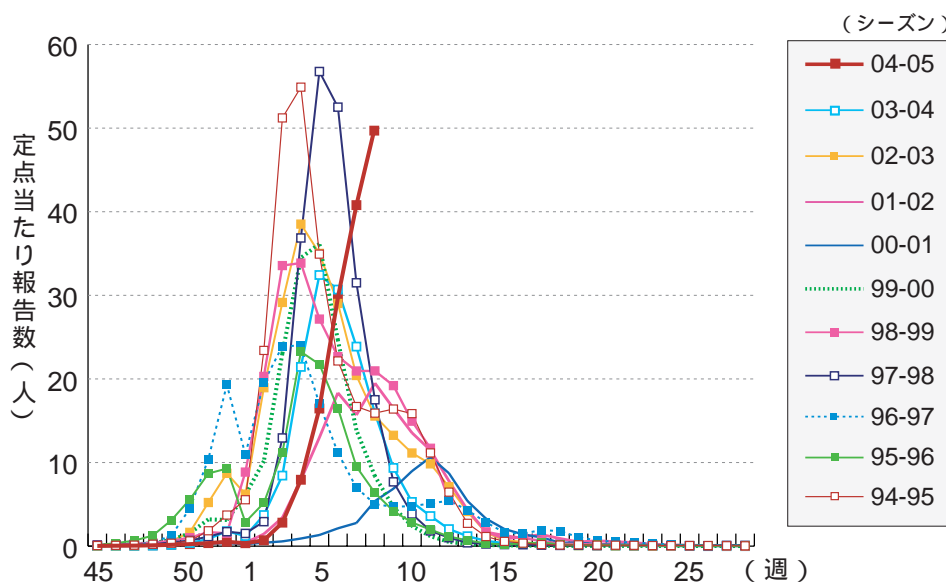


図2. 週別・都道府県別インフルエンザ発生状況 (2005年第8週)

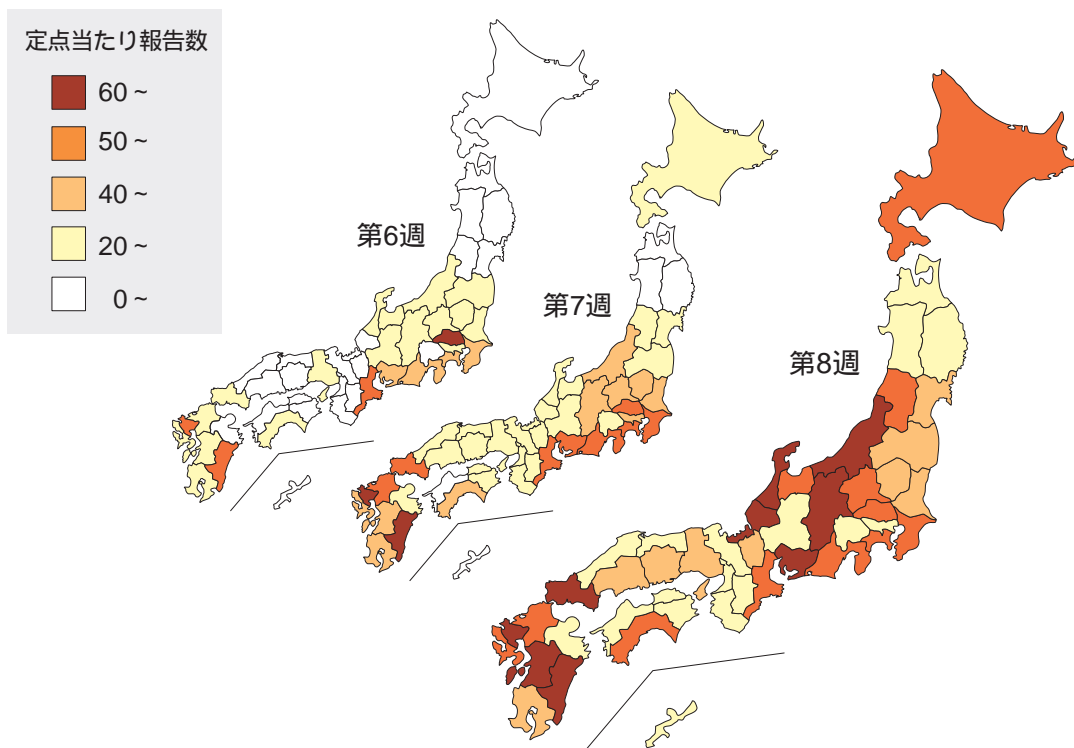
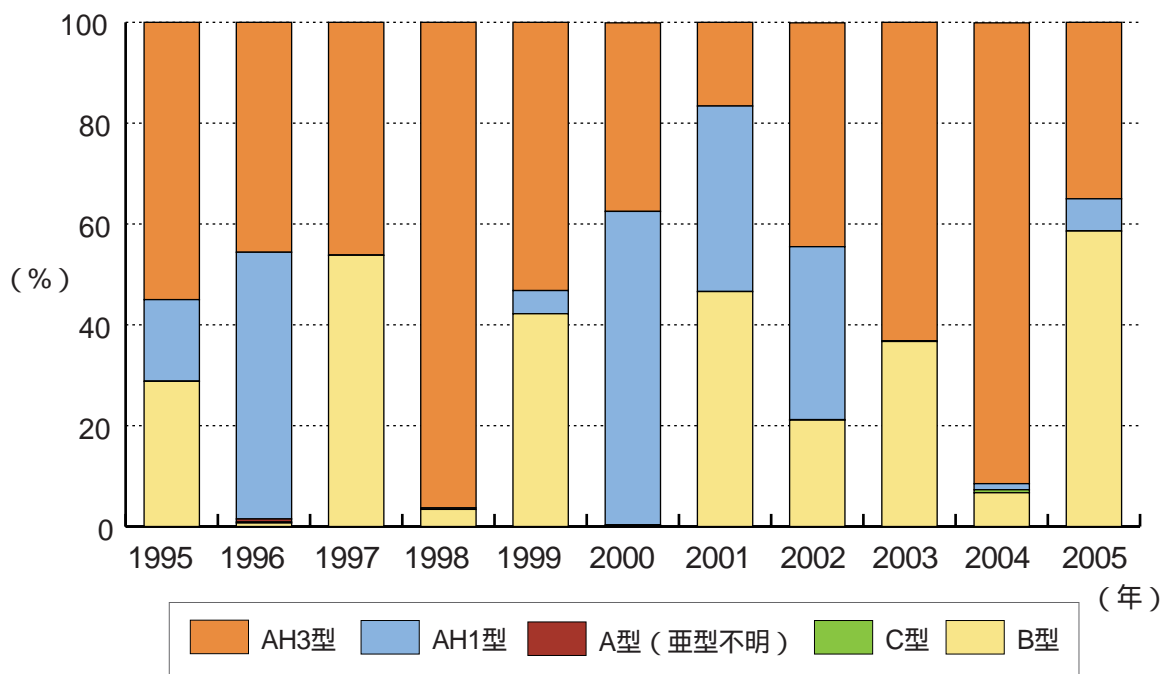


図3. 分離されたインフルエンザウイルス型/亜型の比率の年次別推移





## 病原体情報

\* グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2005年3月4日現在報告分)

### インフルエンザウイルス 2004/05シーズン

今シーズンはB型1,005件(うち1件はPCRのみによる検出)、AH3型602件(うち3件はPCRのみによる検出)、AH1型110件の分離・検出が報告されている。

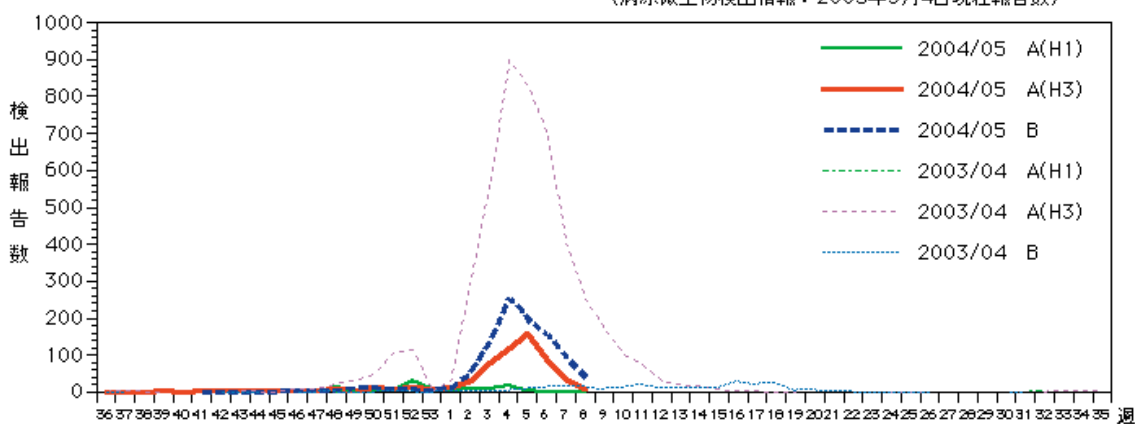
B型は第2週から増加し始め、第3～8週までの週別報告数は135、255、199、159、93、41である。新たに福島県(第2週)、宮崎県(第2週)、香川県(第3週)から分離が報告された。第2週以降では、北海道115(本号速報記事参照)、愛知県98、兵庫県97、神奈川県91、静岡県74、山形県37などからの報告が多い。

AH3型の第3～8週までの週別報告数は80、119、158、86、35、8である。新たに宮崎県(第52週)、香川県(第6週)から分離が報告された。このうちN型別された34件はすべてN2であった(神奈川県21、埼玉県13)。第2週以降では、北海道81、福島県59、兵庫県38、大阪府38、愛知県30、静岡県29などからの報告が多い。

AH1型の第3～8週までの週別報告数は8、17、6、0、0、1である。新たに宮崎県(第4週)、北海道(第8週)から分離が報告された。これまでに宮城県56、岡山県18、岩手県8、福島県8、福井県8など13都道府県から分離が報告されており、このうちN型別された2件はともにN1であった(埼玉県、広島県各1)。

週別型別インフルエンザウイルス分離・検出報告数の推移、2004/05シーズン

(病原微生物検出情報：2005年3月4日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



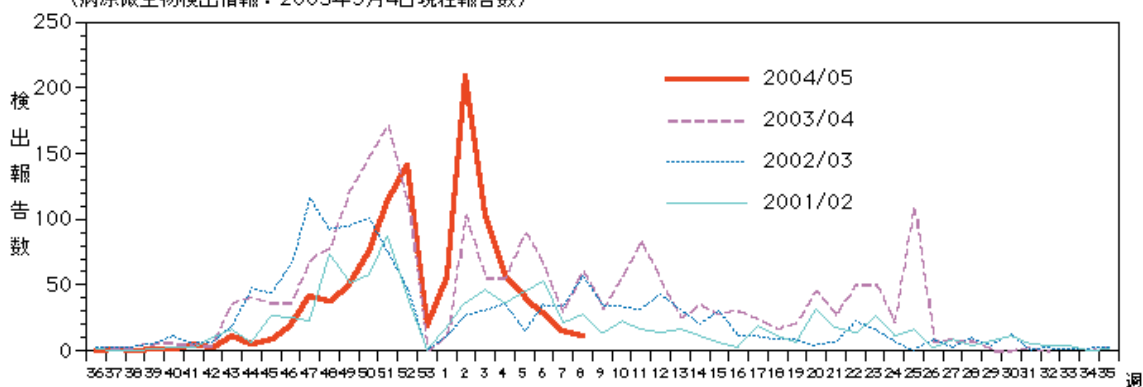
**冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2004/05シーズン**

今シーズンはノロウイルスが1,023件、サポウイルスが31件、電顕による検出(SRSV)が6件報告されている。年明け以降も集団発生事例からのノロウイルス検出報告が相次ぎ、さらに増加がみられている。第2週には前シーズン(2003/04シーズン)のピーク時を上回る209件が報告されている。ノロウイルスの検出報告のうち、約8割はgenogroup(G)IIで、これまでに26都府県から807件(大阪府152、滋賀県91、愛媛県90、宮城県55、秋田県53など)が報告されている。また、GIは16府県から56件(愛媛県10、滋賀県8、岩手県7、京都府6など)、G不明が160件(山形県84、奈良県29、新潟県14など)報告されている。サポウイルスは11府県(三重県10、愛媛県6、大阪府4など)から、電顕による検出は3県(福岡県3、広島県2、栃木県1)から報告されている。

ノロウイルス検出例の年齢は、1歳190件、0歳90件、2歳70件の順に多く、6歳以下の小児からの検出が538件(58%)と多数を占める。また、食中毒や施設内集団発生事例からの検出報告の増加に伴ない、20歳以上の成人からの検出が289件(31%)報告されており、うち65歳以上の高齢者から109件(12%)が報告されている。一方、サポウイルス検出例はほとんど(30/31)が6歳以下からの検出である。

ロタウイルスはこれまでに113件が報告されており、内訳はA群111件、C群2件である。A群は宮城県30、大阪府19、岩手県17、鳥取県8、徳島県8など16府県から報告されている。このうち奈良県で検出された1件の血清型はG3であった。A群検出例の年齢は、1歳37件、0歳24件、2歳16件の順に多く、全体の約8割は3歳以下の乳幼児である。C群の2件は、第53週に岡山県の福祉・養護施設内で起きた集団発生事例で、いずれも成人からの検出である。

**週別SRSV(ノロウイルス、サポウイルス)検出報告数、過去3シーズンとの比較(2001/02-2004/05)**  
(病原微生物検出情報: 2005年3月4日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。







## 初の「サル」の細菌性赤痢」の届出 - 茨城県

厚生労働省健康局結核感染症課

今般、茨城県において細菌性赤痢のサルについて発生の届出があったのでその事例の概要を報告する。

### 1 事例の概要

平成17年2月25日、県内の実験用サルを取り扱う施設の獣医師より、所轄保健所に、細菌性赤痢のサル4頭を診断した旨の届出があった。

当該施設の獣医師が、輸入者からの依頼により、フィリピンから2月17日に輸入された44頭のカニクイザルについて、細菌性赤痢の検査を実施したところ、2月24日、4頭から菌が分離された。なお、当該施設は、感染症法第55条第4項に基づく農林水産大臣の指定を受けたサルの輸入検疫施設である。

また、3月4日、前回の4頭とは別の1頭から菌が分離(前回の検査では陰性)されたため、前回と同様に当該施設の獣医師より、所轄保健所に届出がなされた。

(参考)サル」の細菌性赤痢の「届出基準」及び「診断・対応ガイドライン」

届出基準

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2004/10/tp1001-4e.html>

診断・対応ガイドライン

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2004/10/dl/tp1001-4h.pdf>

### 2 届出を受けた保健所の対応

2月25日及び3月4日、所轄保健所は、法第15条に基づく積極的疫学調査として当該施設の獣医師及び施設責任者への聞き取り調査等を実施し、当該感染サルから人への感染防止のための所要の措置(法第27条及び第29条に基づく指示等)を実施した。

#### (1)当該サルの治療の確認

当該施設の獣医師は、感染確認後直ちに抗菌剤による感染サルの治療を実施、治療後3回の糞便検査により陰性を確認したのちに輸入者に引き渡す予定である。なお、3月4日に確認された感染サル1頭については、個別飼育方式であること、分離された菌株が他の4頭と異なることから、二次感染ではなく健康保菌サルからの排菌と思料される。

#### (2)糞便等汚染物品の適切な処理の確認

当該施設では、糞便等汚物は消毒剤による殺菌後、活性汚泥処理が行われている。また、使用後の防護衣等は高圧滅菌処理されている。

#### (3)接触者の健康調査

感染サルとの接触の可能性のある者は11名であり、健康状態は良好であったが、念のため、検便検査を実施したところ、全員陰性であることが確認された。

### 3 総括

今回の事例は、輸入検疫施設における無症状保菌サルでの確認事例であり、当該施設は構造及び従事者の標準作業手順から、外部と遮断されており、周辺地域への感染拡大等公衆衛生上の影響はないと判断された。

なお、サル」の細菌性赤痢」の届出に対しては、それぞれの事例の公衆衛生上のリスクに応じた対応が必要であることから、現在、対応ガイドラインを作成中である。

## 腸チフス 2004年(2005年2月16日時点)

腸チフスはチフス菌(*Salmonella Typhi*)の感染によって起こる全身性疾患である。チフス菌の感染はヒトに限って起こるので、患者および無症状病原体保有者の糞便と尿、およびそれらに汚染された食品、水、手指が感染源となる。通常は1～3週間の潜伏期の後、39～40℃の発熱が出現する。主要症状は高熱の持続で、他に特記すべき症状のないことが多い。比較的徐脈(高熱のわりに脈拍数が少ない)、バラ疹、脾腫が3主徴とされているが、これらの出現率は30～50%台である。便秘、時には下痢のみられることもある。合併症として腸出血、腸穿孔があるが、ニューキノロン薬が使用されるようになってからは稀である。また、適切な治療がなされないと、再発・再燃や慢性のチフス菌保菌者になることがある。しかし最近、ニューキノロン薬低感受性の症例の増加が問題となっている。

腸チフスは、感染症法(1999年4月1日施行)に基づく二類感染症として、疑似症患者、無症状病原体保有者を含む症例の届け出が、診断した全ての医師に義務づけられている。過去の年間累積報告数は、2000年86例、2001年65例、2002年63例、2003年62例であり、2004年の報告数(診断週が2004年第1～53週のもので、2005年2月16日までに報告されたもの)は66例と、過去3年とほぼ同様であった。それらのうち、疑似症が5例で、無症状病原体保有者は3例であった。

疑似症を除く61例の性別は男性31例、女性30例で、年齢は2～67歳(中央値22歳)であった。推定感染地域は国内10例、国外49例、不明2例であった。死亡例の記載はなかった。病原診断は細菌培養により行われているが、その検体の種類をみると、有症状者(58例)では血液および便5例、血液のみ40例、便のみ11例、腸粘膜2例で、無症状病原体保有者(3例)では便2例、尿1例であった。

国内を推定感染地域とする10例(男性3例、女性7例)について、年齢群別にみると、10歳未満3例、10代1例、20代0例、30代3例、40代1例、50代0例、60代2例、70歳以上なし(年齢中央値32歳)であった(図1)。発症日の記載のあった8例では、発症月や季節に偏りは見られなかった(図2)。なお、いずれの症例も推定感染源は特定されなかった。

国外を推定感染地域とする49例(男性27例、女性22例)について、年齢群別にみると、10歳未満5例、10代12例、20代24例、30代6例、40代1例、50代0例、60代1例、70歳以上なし(年齢中央値22歳)で、特に20代男性が多かった。20代男性は国内感染・感染地不明を含めても同様に最も多く、これは従来どおりの傾向である(図1)。

発症日の記載のある48例について、発症月をみると、4月(11例)、8月(11例)に多く、長期休暇の影響と考えられた(図2)。また、推定感染国別にみると(複数回答あり)、インド21例、バングラデシュ8例、ネパール6例、フィリピン4例、インドネシア3例、カンボジア3例の順に多かった(図3)。なお、バングラデシュの8例中5例は同一ツアーであった。

予防のためのワクチンとして世界的には全菌体ワクチン、経口生ワクチン、莢膜多糖体ワクチンの3種類があるが、全菌体ワクチンは使われなくなりつつある。わが国ではいずれも発売されていない。

予防の基本は感染経路の遮断であり、特に手洗いの励行が重要である。流行地では、生水、氷、生の魚貝類、生野菜、カットフルーツなどを避けることが肝要である。また、無理な旅行日程などによって体調をくずし、抵抗力を落とさないよう心がけることも大切である。

図1. 腸チフス患者の性別・年齢別報告数 (2004年)

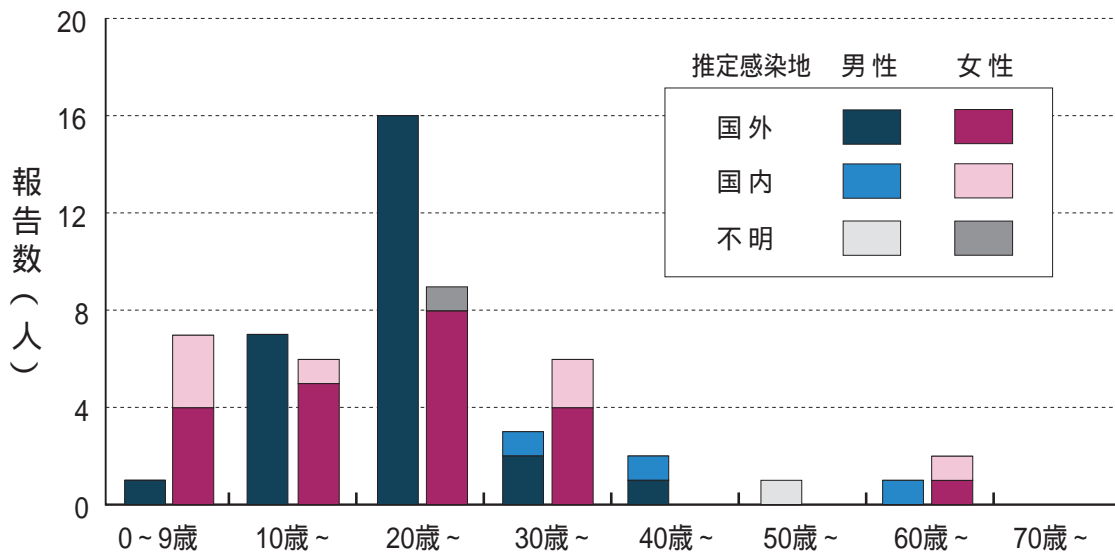


図2. 腸チフス患者の発症月別報告数 (2004年)

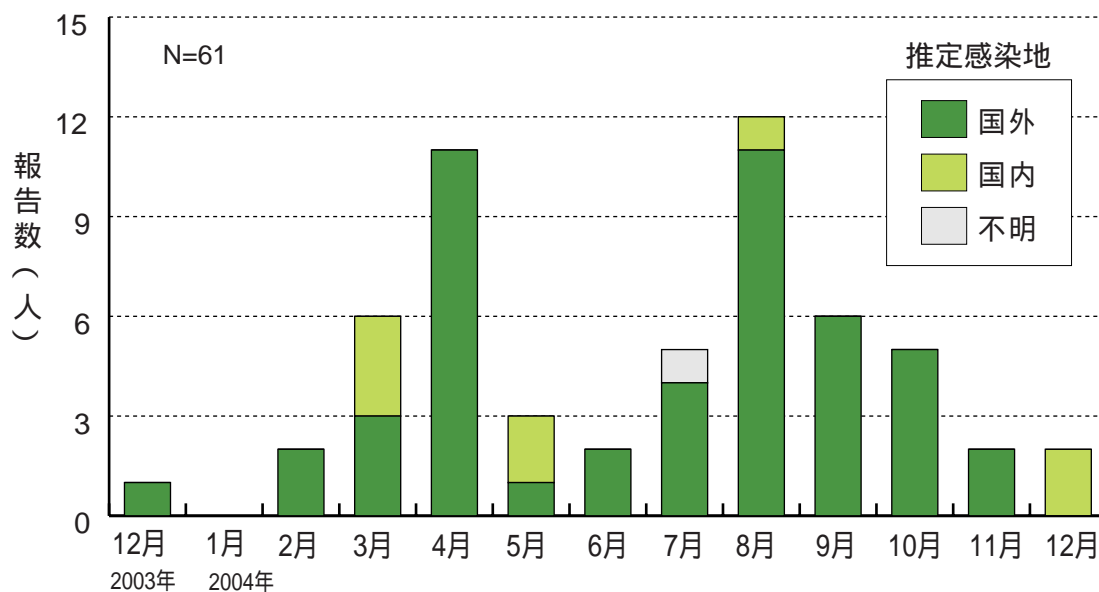
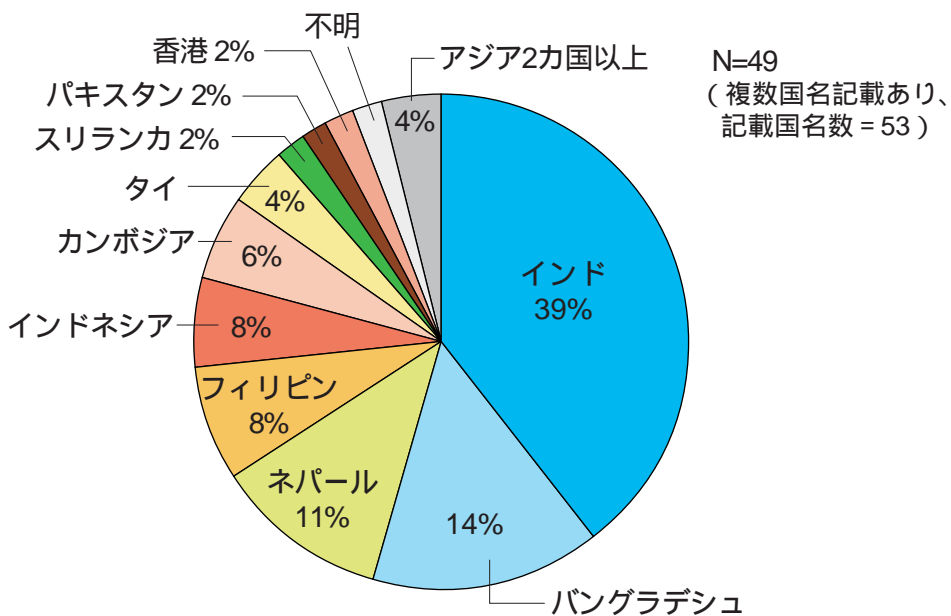


図3. 腸チフス国外感染例の推定感染国 ( 2004年 )



## 2004/05シーズンのB型インフルエンザウイルス分離状況 - 札幌市

札幌市における2004/05シーズンのB型インフルエンザウイルスの流行は、昨シーズンに引き続き、山形系統が主流を占めているが、2005年1月24日(第4週)に採取された咽頭ぬぐい液から、今シーズン最初のVictoria系統のB型インフルエンザウイルスが分離されたので、その概要について報告する。

患者報告数: 2004/05シーズンでは2004年第46週(11月8日～14日)に初めて、3名の患者発生報告があった。その後、2005年第4週(1月24日～30日)に流行開始の指標とされる定点当たり患者数が1に達し、第6週(2月7日～13日)には流行発生注意報の基準値(10)を超えて18.9となり、患者数が急増した。

ウイルス分離状況: 市内定点医療機関(小児科10定点、内科4定点)を受診した患者から採取された咽頭ぬぐい液等を検査材料として、ウイルス分離を行った。検査材料をMDCK細胞に接種してCPEが確認された培養液について、0.75%モルモット赤血球を用いてHA価を測定後、国立感染症研究所より分与された2004/05シーズン用インフルエンザウイルス同定キットを用いて、HI試験を行った。

札幌市において今シーズン初めて分離されたインフルエンザウイルスは、2004年12月29日(第53週)採取の咽頭ぬぐい液から検出されたAH3型であった。一方、B型インフルエンザウイルスは、2005年1月21日(第3週)に採取された咽頭ぬぐい液から山形系統株が初めて分離された。その後、分離数は増加し、2月22日現在までにAH3型が37株、B型が60株分離されている。

B型60株のうち、山形系統が54株、Victoria系統が6株である。今シーズン最初に分離されたVictoria系統のウイルスは、1月24日(第4週)に採取された咽頭ぬぐい液からで、第4週(1月24日～30日)に2株、第5週(1月31日～2月6日)に3株、第6週(2月7日～13日)に1株が分離され、第7週(2月14日～20日)については今のところ分離されていない。また、患者はすべて同一の小児科定点医療機関を受診しており、年齢は12～15歳であった。

これらのB型分離株は、抗A/Moscow/13/98(H1N1) (ホモ価2,560)、抗A/New Caledonia/20/99(H1N1) (同640)、抗A/Wyoming/03/2003(H3N2) (同640)各フェレット感染血清でいずれもHI価<10を示した。山形系統株については抗B/Johannesburg/5/99羊高度免疫血清(同2,560)でHI価1,280～2,560、抗B/Brisbane/32/2002羊高度免疫血清(同640)でHI価20～80を示した。一方、Victoria系統株については、抗B/Johannesburg/5/99羊高度免疫血清(同2,560)でHI価10～20、抗B/Brisbane/32/2002羊高度免疫血清(同640)でHI価160～320を示した。

昨シーズンは全国的にAH3型が大部分を占めていたが、少数分離されたB型は2シーズンぶりに山形系統が主流であった。本市における昨シーズンのインフルエンザ流行状況は、AH3型とB型の混合流行であり、シーズン前半にA型が、後半にB型が流行する傾向がみられたが、今シーズンについては、比較的早い時期からAH3型とB型が混合流行しており、また、第4週以降はB型が主流となっている。B型ウイルスについては、昨シーズンに引き続き山形系統が主流を占めているが、少数ではあるがVictoria系統が分離されたことから、今シーズンのB型ウイルスの今後の動向に注目したい。

札幌市衛生研究所

宮北佳恵 菊地正幸 吉田靖宏 土屋英保 大川一美 藤田晃三

(IASR2005年3月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



## 感染症の話

### インフルエンザ

インフルエンザ( influenza )は、インフルエンザウイルスを病原とする気道感染症であるが、「一般のかぜ症候群」とは分けて考えるべき「重くなりやすい疾患」である。流行が周期的に現われてくるところから、16世紀のイタリアの占星家たちはこれを星や寒気の影響( influence )によるものと考え、これがインフルエンザの語源であると言われている。インフルエンザは、いまだ人類に残されている最大級の疫病である。

なお、鳥インフルエンザについては別稿で扱う予定である。

#### 疫学

毎年世界各地で大なり小なりインフルエンザの流行がみられる。温帯地域より緯度の高い国々での流行は冬季にみられ、北半球では1～2月頃、南半球では7～8月頃が流行のピークとなる。熱帯・亜熱帯地域では、雨季を中心としてインフルエンザが発生する。

わが国のインフルエンザの発生は、毎年11月下旬から12月上旬頃に始まり、翌年の1～3月頃に患者数が増加し、4～5月にかけて減少していくパターンを示すが、夏季に患者が発生し、インフルエンザウイルスが分離されることもある。流行の程度とピークの時期はその年によって異なる。

インフルエンザ流行の大きい年には、インフルエンザ死亡者数および肺炎死亡者数が顕著に増加し、さらには循環器疾患を始めとする各種の慢性基礎疾患を死因とする死亡者数も増加し、結果的に全体の死亡者数が増加することが明らかになっている( 超過死亡 )。ことに高齢者がこの影響を受けやすい。

わが国の感染症発生動向調査における1999/2000～2003/04の過去5シーズン( 前年第36週～翌年第35週 )でのインフルエンザ届け出状況を見ると、多い方から順に2002/03、1999/2000、2003/04、2001/02、2000/01シーズンであった。

#### 病原体

インフルエンザウイルス( 図 )にはA , B , Cの3型があり、流行的な広がりを見せるのはA型とB型である。A型とB型ウイルス粒子表面には赤血球凝集素( HA )とノイラミニダーゼ( NA )という糖蛋白があり、これらが感染防御免疫の標的抗原となっている。とくにA型では、HAには15種類、NAには9種類の抗原性の異なる亜型が存在し、これらの様々な組み合わせを持つウイルスが、ヒト以外にもブタやトリなどその他の宿主に広く分布している。

A型インフルエンザでは、数年から数十年ごとに世界的な大流行が見られるが、これは突然別の亜型のウイルスが出現して、従来の亜型ウイルスにとって代わることによって起こる。これを不連続抗原変異( antigenic shift )という。1918年にスペインかぜ( H1N1 )が出現し、その後39年間続いた。1957年にはアジアかぜ( H2N2 )が発生し、11年間続いた。1968年には香港型( H3N2 )が現れ、ついで1977年にソ連型( H1N1 )が加わり、現在はA型であるH3N2とH1N1、およびB型の3種のインフルエンザウイルスが世界中で流行している。

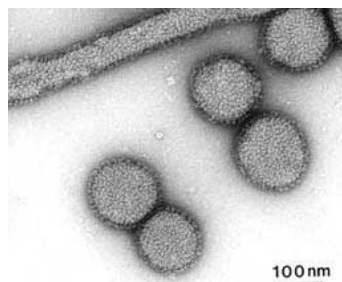


図. インフルエンザウイルスの電子顕微鏡像

わが国では、1999/2000～2003/04の過去5シーズンにおける分離インフルエンザウイルスを亜型でみると、AH1型は1999/2000、2000/01、2001/02の3シーズン連続してある程度分離されたが、2002/03、2003/04の2シーズン連続してほとんど分離されなかった。AH3型は過去5シーズン連続して分離されたが、2000/01シーズンには少なかった。B型は、1999/2000シーズンにはほとんど分離されず、2000/01、2001/02、2002/03の3シーズン連続してある程度分離され、2003/04シーズンには少なかった。

一方、同一の亜型内でも、ウイルス遺伝子に起こる突然変異の蓄積によって、HAとNAの抗原性は少しずつ変化する。これを連続抗原変異(antigenic drift)という。インフルエンザウイルスでは連続抗原変異が頻繁に起こるので、毎年のように流行を繰り返す。

### 臨床症状

A型またはB型インフルエンザウイルスの感染を受けてから1～3日間ほどの潜伏期間の後に、発熱(通常38以上の高熱)、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが突然現われ、咳、鼻汁などの上気道炎症状がこれに続き、約1週間の経過で軽快するのが典型的なインフルエンザで、いわゆる「かぜ」に比べて全身症状が強い。とくに、高齢者や、年齢を問わず呼吸器、循環器、腎臓に慢性疾患を持つ患者、糖尿病などの代謝疾患、免疫機能が低下している患者では、原疾患の増悪とともに、呼吸器に二次的な細菌感染症を起こしやすくなることが知られており、入院や死亡の危険が増加する。小児では中耳炎の合併、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもある。

近年、幼児を中心とした小児において、急激に悪化する急性脳症が増加することが明らかとなっている。厚生労働省「インフルエンザ脳炎・脳症の臨床疫学的研究班」(班長:岡山大学医学部森島恒雄教授)で行った調査によると、毎年50～200人のインフルエンザ脳症患者が報告されており、その約10～30%が死亡している。臨床経過や病理所見からは、ライ症候群とは区別される疾患と考えられるが、原因は不明である。現在も詳細な調査が続けられている。

### 病原診断

急性期の患者の咽頭ぬぐい液やうがい液などを検体とし、発育鶏卵羊膜腔や培養細胞(MDCK細胞など)に接種してウイルス分離を行う。

血清診断には、従来から補体結合法(CF)、赤血球凝集阻止反応(HI)などがあるが、いずれも急性期と回復期の抗体価の4倍以上の上昇で診断するので、確定診断には2～3週間を要する。CF抗体はウイルスの内部抗原を認識する抗体で、インフルエンザA、B、Cの型別はできるが、A型ウイルスの亜型の判別は不可能である。この抗体は感染後比較的速やかに消失することが多いので、比較的最近の感染の推定に利用することができる。HI抗体は感染後も長期間にわたって検出され、また型別、亜型別の判定や抗原変異の程度を比較的簡単に測定することが可能であり、血清疫学調査やワクチンの効果を調べるのに有用である。遺伝子診断法(RT-PCR)も利用されるが、実験室内の交叉汚染や特異性の問題もあり、結果の判定・評価には慎重さが求められる。

最近では外来、あるいはベッドサイドなどで20～30分以内に迅速簡便に病原診断が可能なインフルエンザ抗原検出キットが、とくにわが国において広く利用されるようになり、臨床現場におけるインフルエンザの検査診断が容易になった。一方、その限界、抗ウイルス薬使用との関係など、新たな問題も一部生じている。

### 治療・予防

従来、対症療法が中心であったが、1998年にわが国でも抗A型インフルエンザ薬としてアマンタジンを使用することが認可された。アマンタジンはB型ウイルスには無効である。神経系の副作用を生じやすく、また、患者に使用すると比較的早期に薬剤耐性ウイルスが出現するため、注意して使用する必要がある。ノイラミニダーゼ阻害薬(ザナミビル、オセルタミビル)は、わが国では2001年に医療保険に収載された。ノイラミニダーゼ阻害薬はA型にもB型にも有効で、耐性も比較的できにくく、副作用も少ないとされており、発病後2日以内に服用すれば症状を軽くし、罹病期間の短縮も期待できる。

対症療法としての解熱剤、ことにアスピリンは、ライ症候群との関係が推測されており、小児への使用は原則禁忌である。また、インフルエンザ脳症の悪化因子として、非ステロイド系解熱剤のうちジクロフェナクナトリウム、メフェナム酸は同じく小児には基本的に使用しないように、とされている。解熱剤が必要な場合は、なるべくアセトアミノフェンを使用する。肺炎や気管支炎を併発して重症化が予想される患者に対しては、これらの合併症を予防するために、抗菌薬の投与が行われることがある。インフルエンザ脳症の治療に関しては確立されたものはなく、臨床症状と重症度に応じた専門医療機関での集中治療が必要である。

予防としては基本的事項として、流行期に人込みを避けること、それが避けられない場合などにはマスクを着用すること、外出後のうがいや手洗いを励行することなどが挙げられる。

現在わが国で用いられているインフルエンザワクチンは、ウイルス粒子をエーテルで処理して発熱物質などとなる脂質成分を除き、免疫に必要な粒子表面の赤血球凝集素(HA)を含む画分を密度勾配遠沈法により回収して主成分とした、不活化HAワクチンである。感染や発症そのものを完全には防御できないが、重症化や合併症の発生を予防する効果は証明されており、高齢者に対してワクチンを接種すると、接種しなかった場合に比べて、死亡の危険を1/5に、入院の危険を約1/3～1/2にまで減少させることが期待できる。現行ワクチンの安全性はきわめて高いと評価されている。

わが国においては、インフルエンザワクチンは定期予防接種二類として、1)65歳以上の高齢者、2)60歳以上65歳未満であって、心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能に、またはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に一定の障害を有する者に対しては、本人の希望により予防接種が行われ(一部実費徴収)また万一副作用が生じた際には、予防接種法に基づいて救済が行われる。その他の年齢では任意接種となる。

また2004年7月からは、原則として発症者の同居家族や共同生活者で、しかも特殊条件の者を対象にリン酸オセルタミビルの予防投与が承認されたが、接触後2日以内の投与開始を条件としている。

### 感染症法におけるインフルエンザの取り扱い

インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)は五類感染症定点把握疾患に定められており、全国約5,000カ所のインフルエンザ定点医療機関(小児科約3,000、内科約2,000)より毎週報告がなされている。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の4つの基準を全て満たすもの

1. 突然の発症



2. 38 を超える発熱
3. 上気道炎症状
4. 全身倦怠感等の全身症状

なお、非流行期での臨床診断は、他疾患とのより慎重な鑑別が必要である。

上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

#### 学校保健法におけるインフルエンザの取り扱い

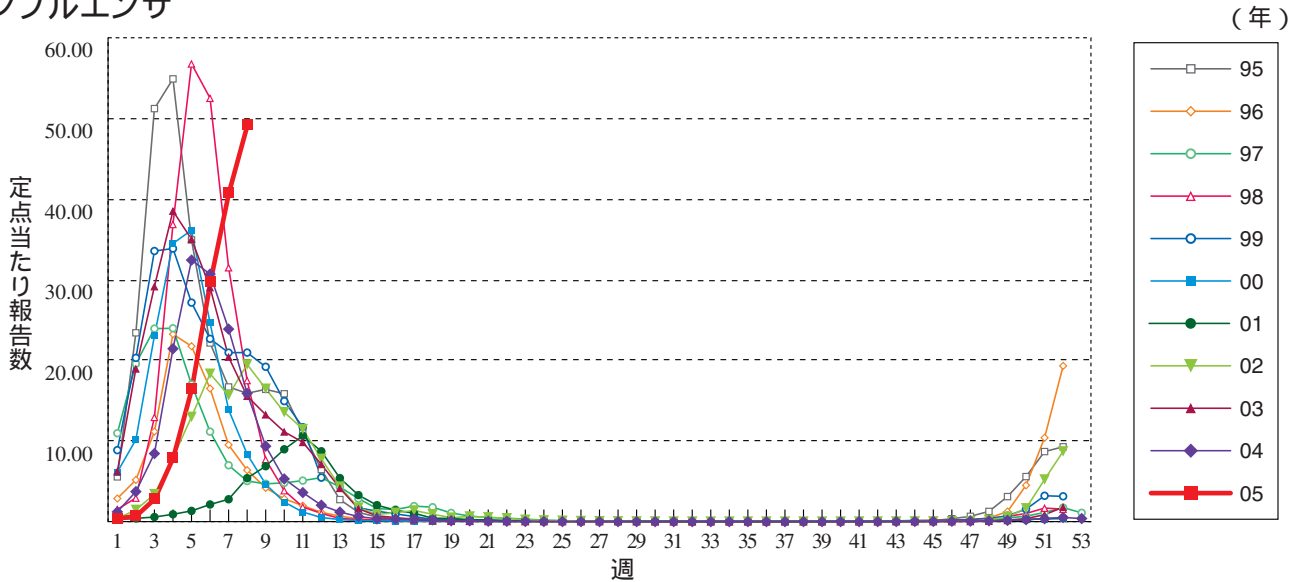
インフルエンザは学校において予防すべき伝染病第2種に定められており、通常は解熱後2日を経過するまで出席停止となる。しかし病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。

( 国立感染症研究所感染症情報センター 岡部信彦 )

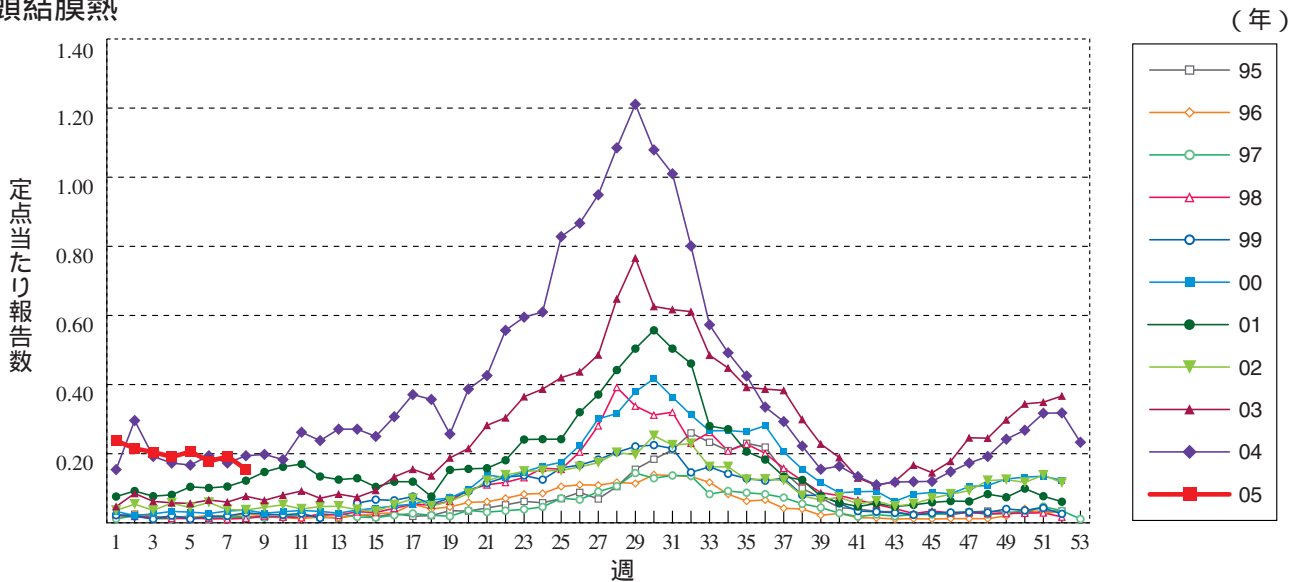


**グラフ総覧(8週)**

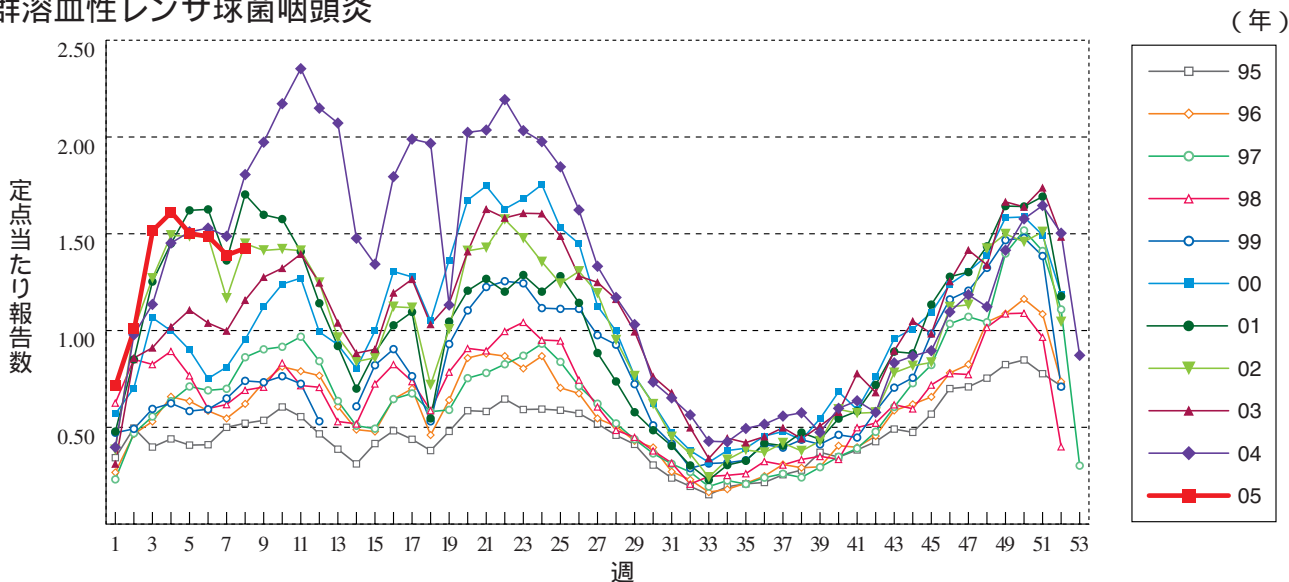
**インフルエンザ**



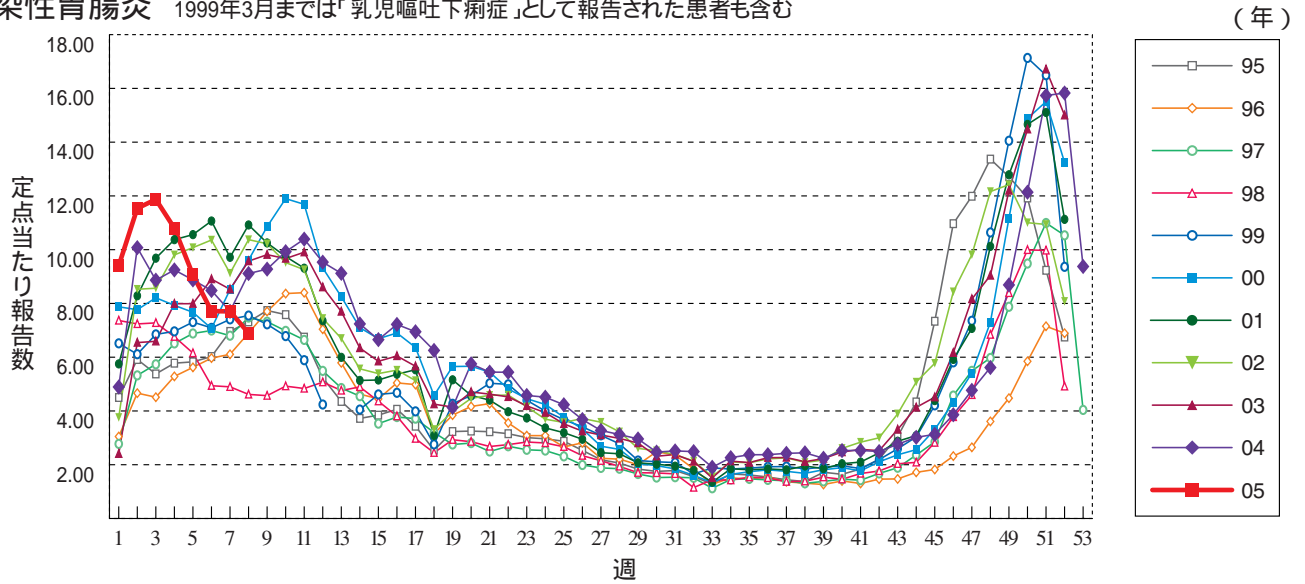
**咽頭結膜熱**



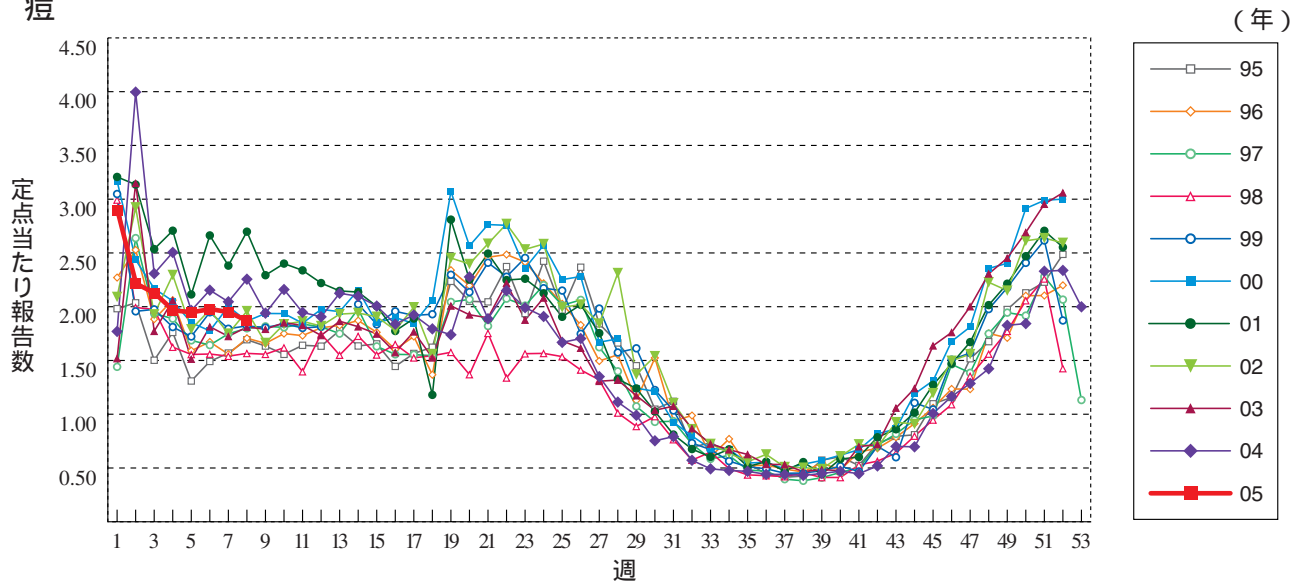
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



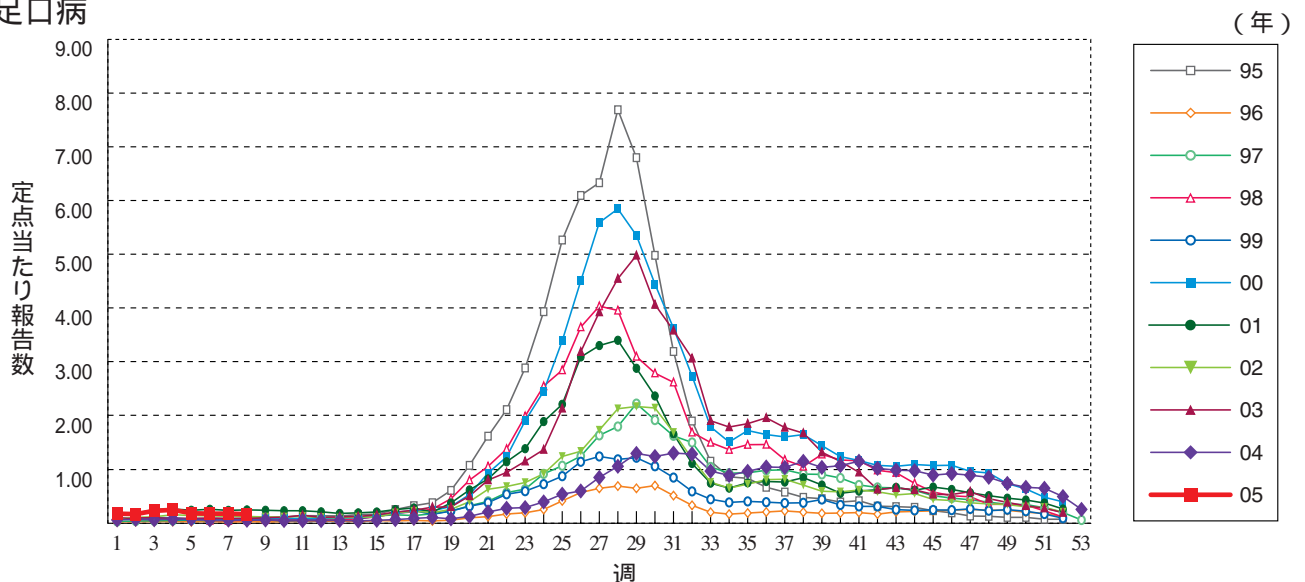
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



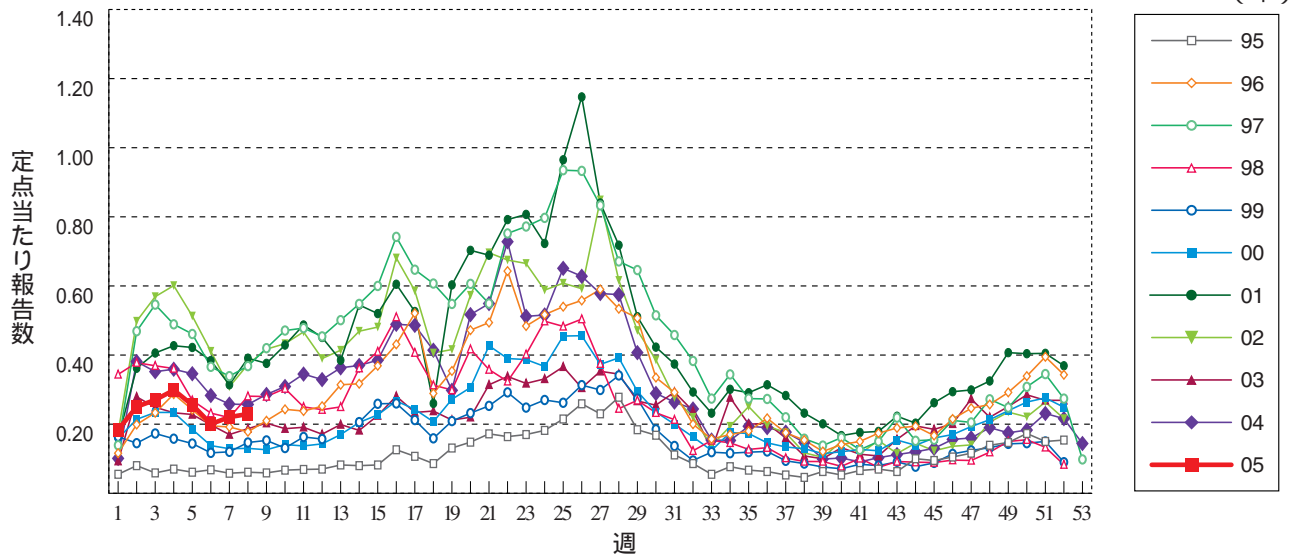
**水痘**



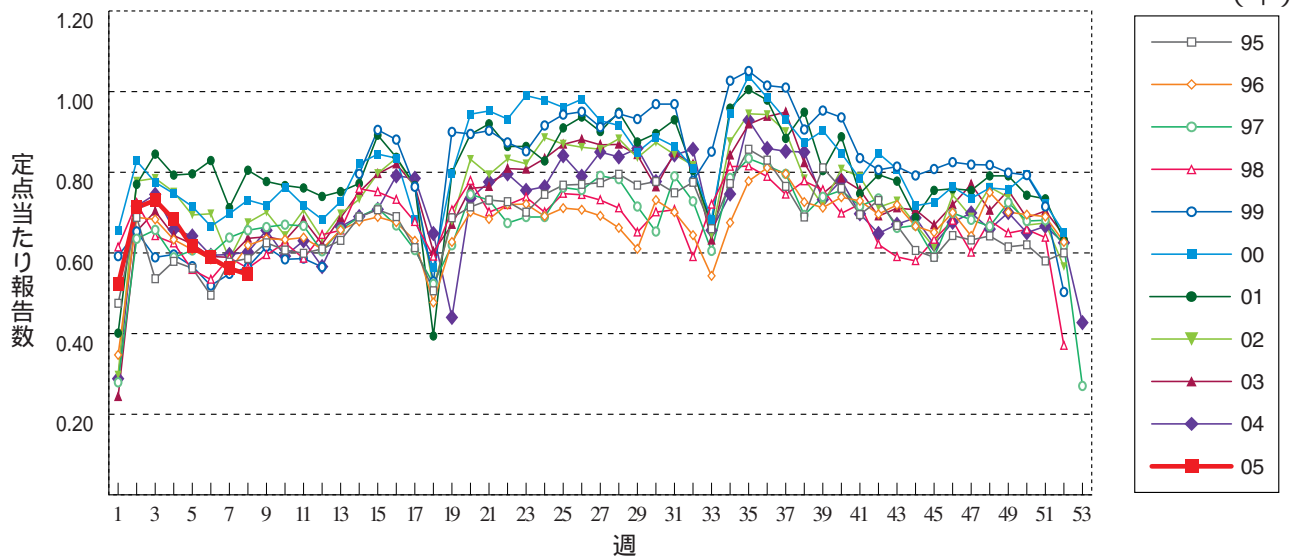
**手足口病**



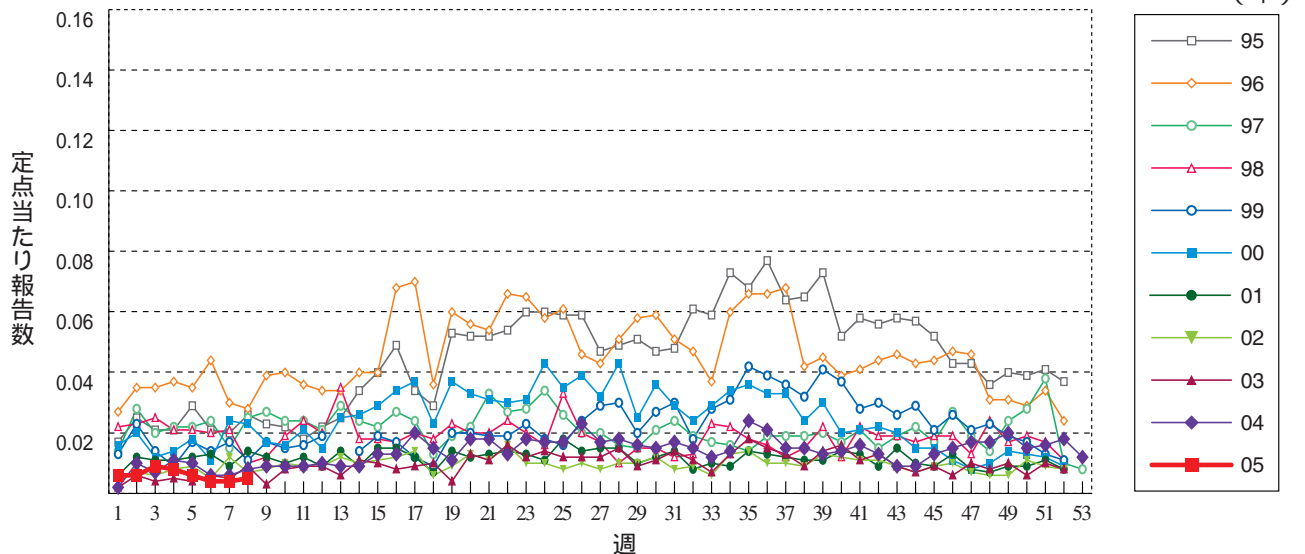
伝染性紅斑



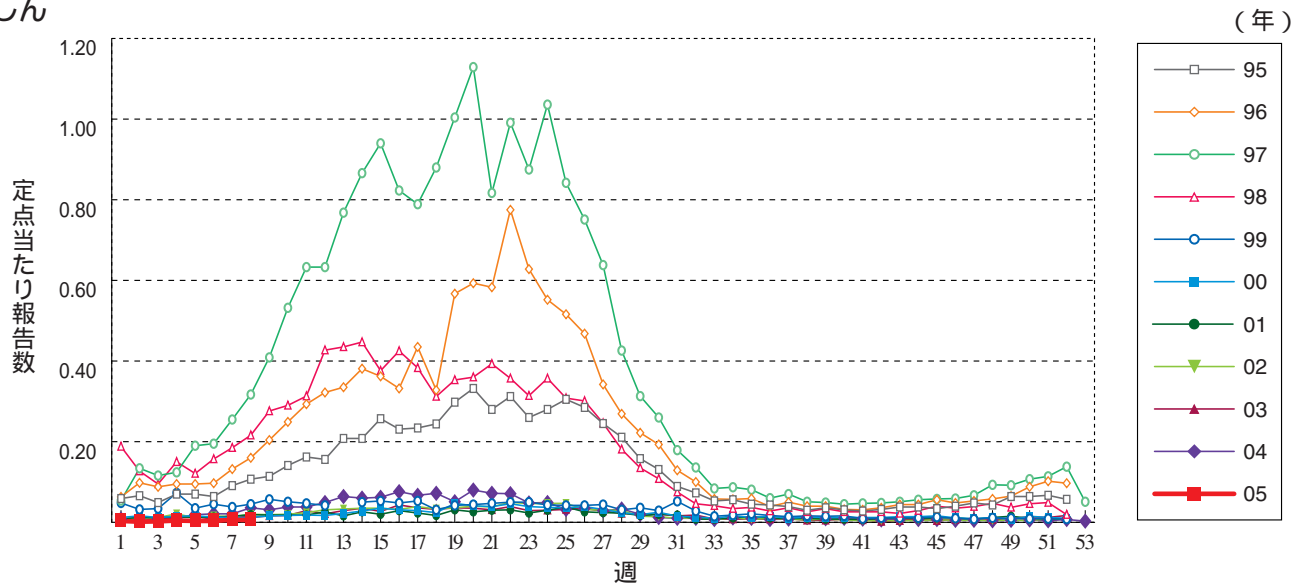
突発性発しん



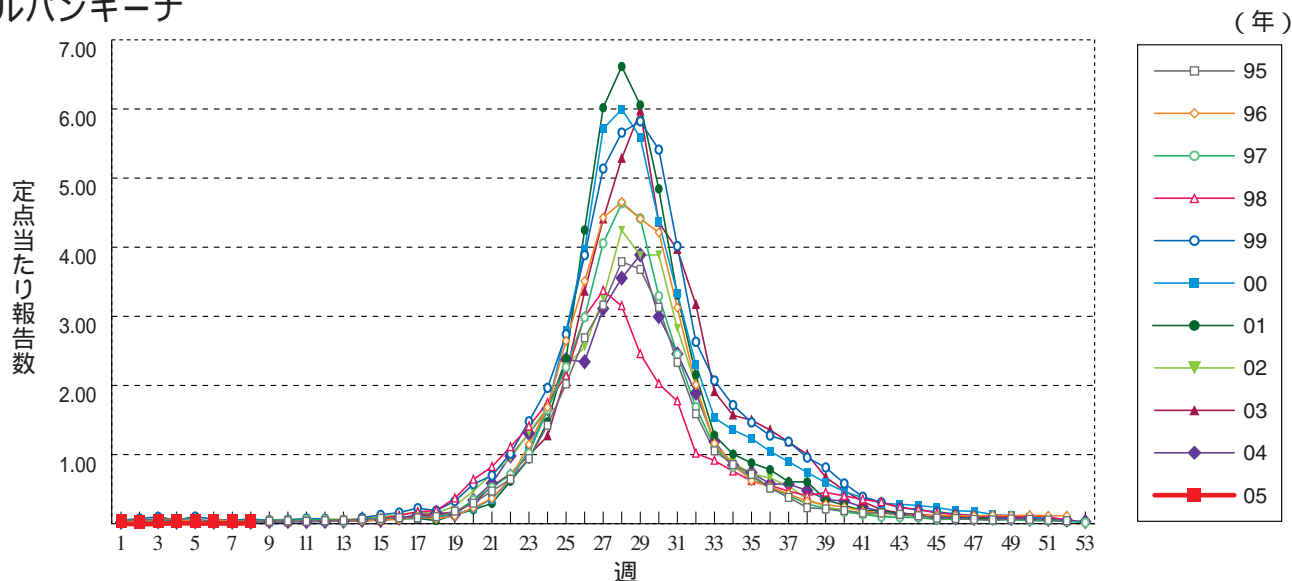
百日咳



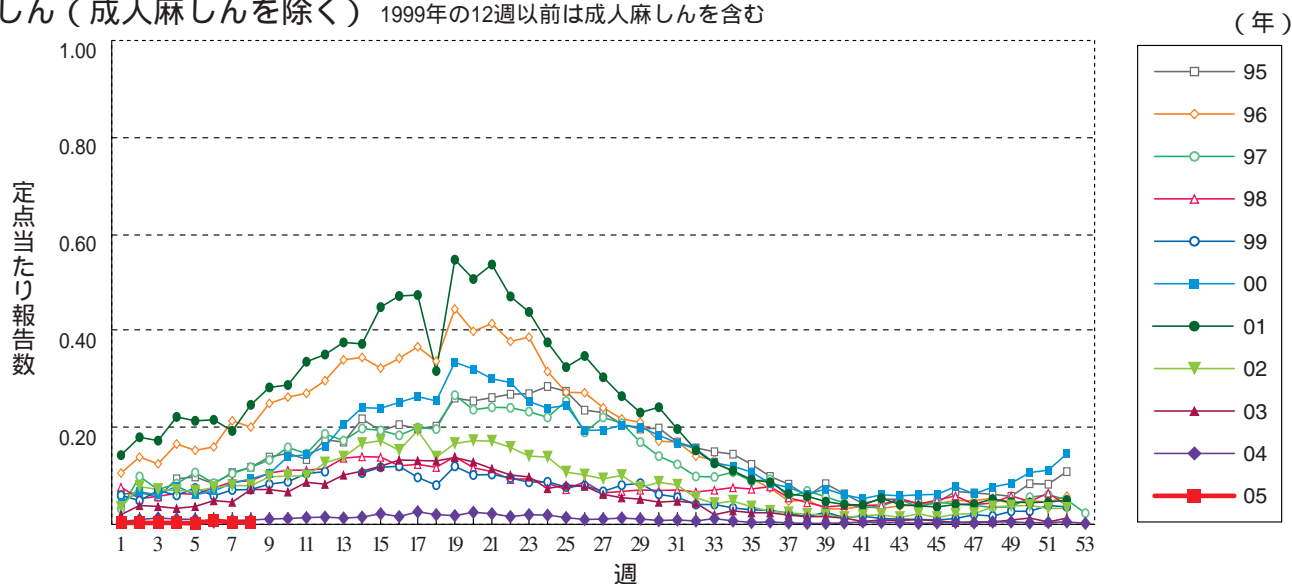
風しん



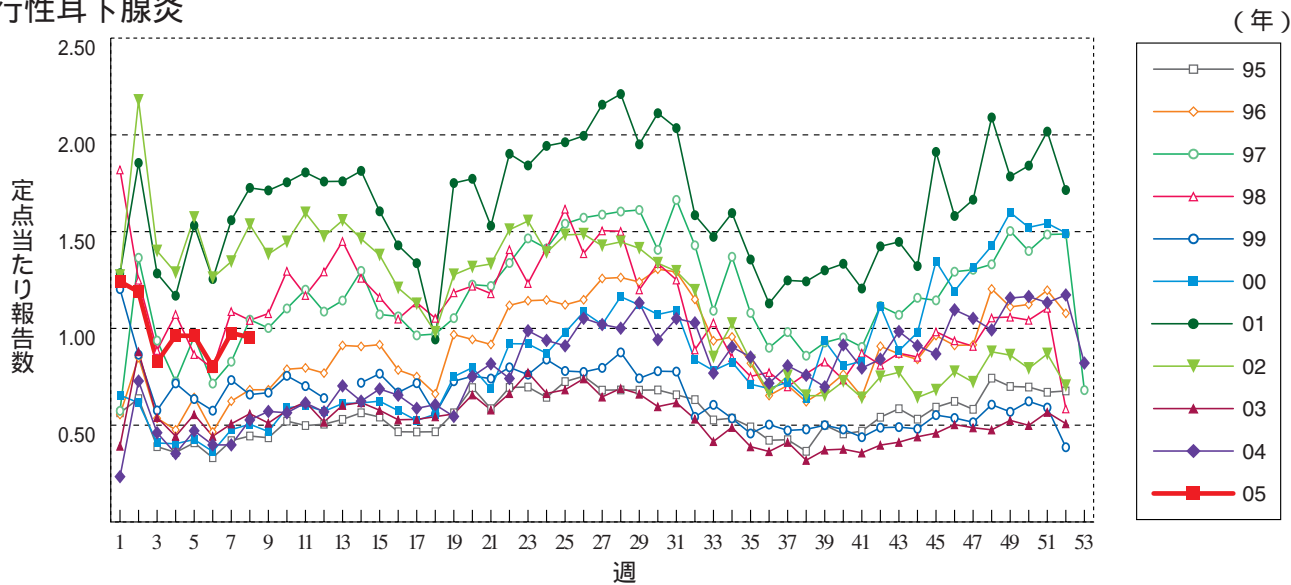
ヘルパンギーナ



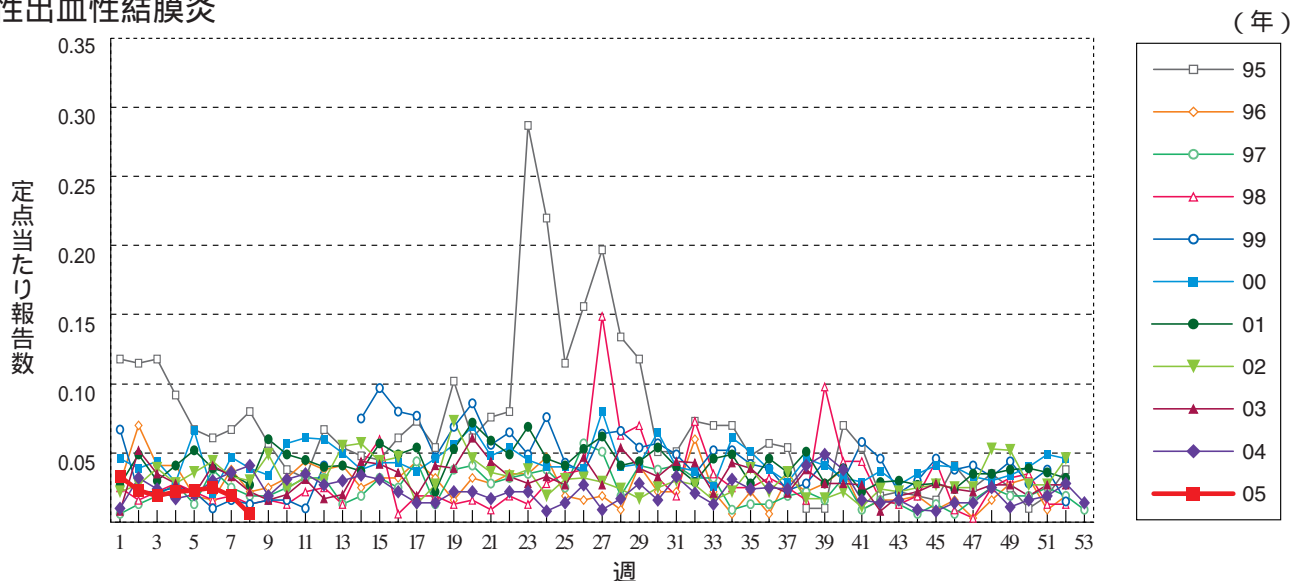
麻しん (成人麻しんを除く) 1999年の12週以前は成人麻しんを含む



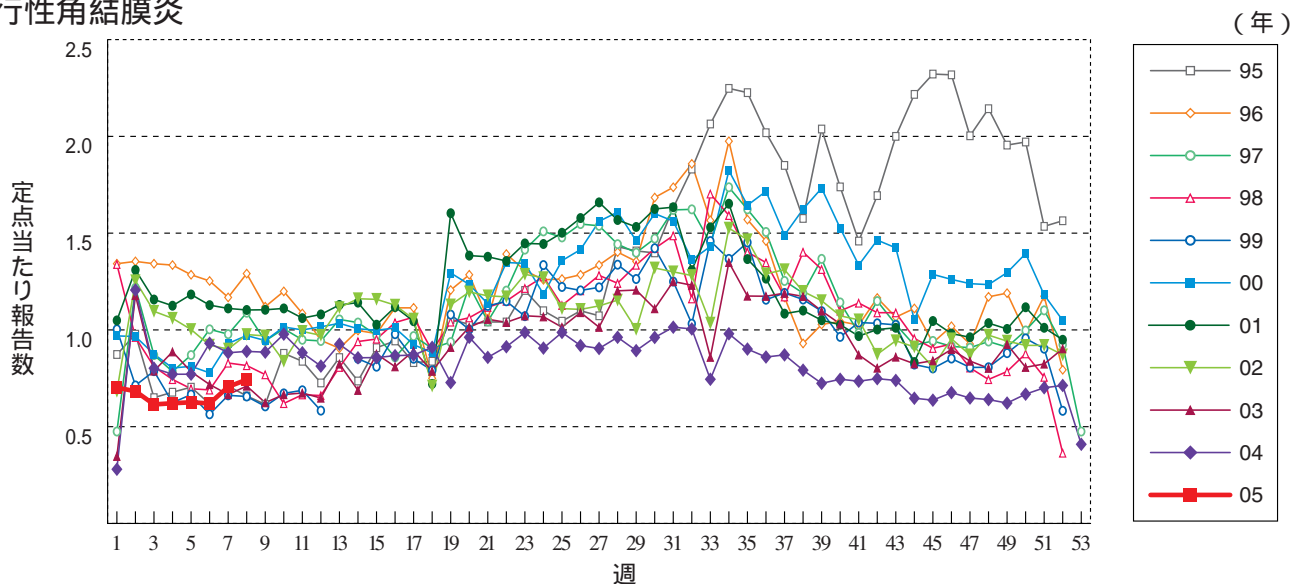
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

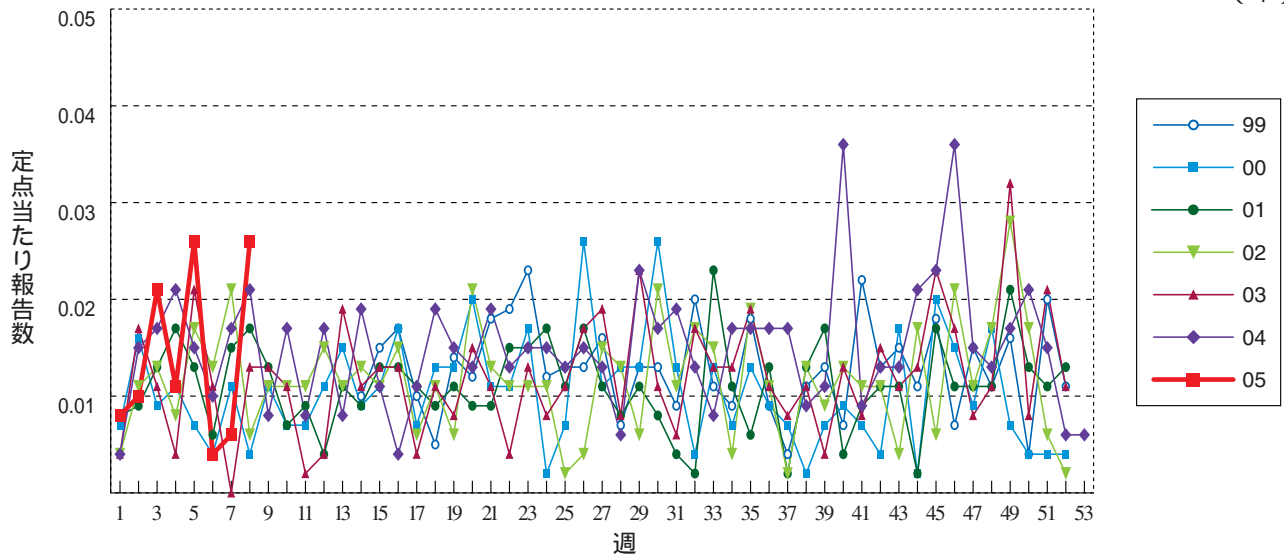


流行性角結膜炎



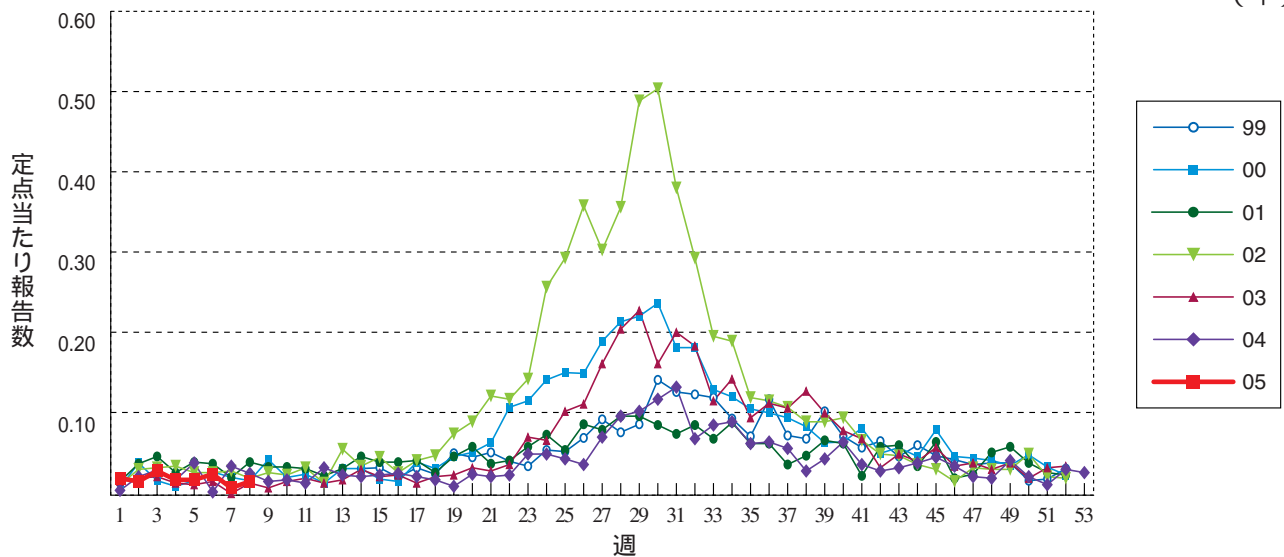
細菌性髄膜炎

(年)



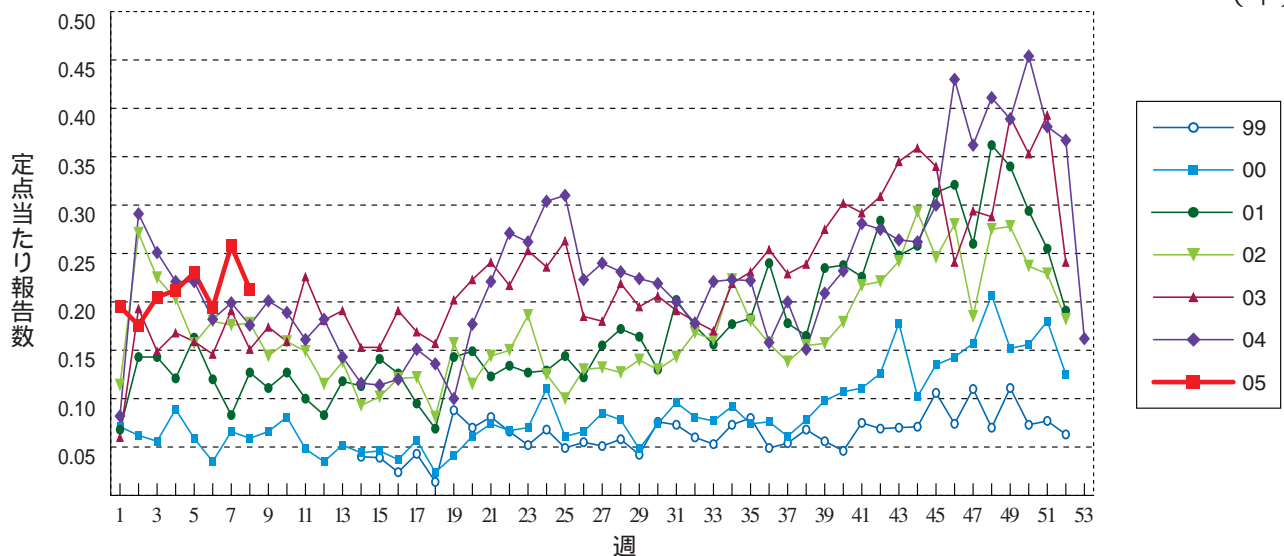
無菌性髄膜炎

(年)

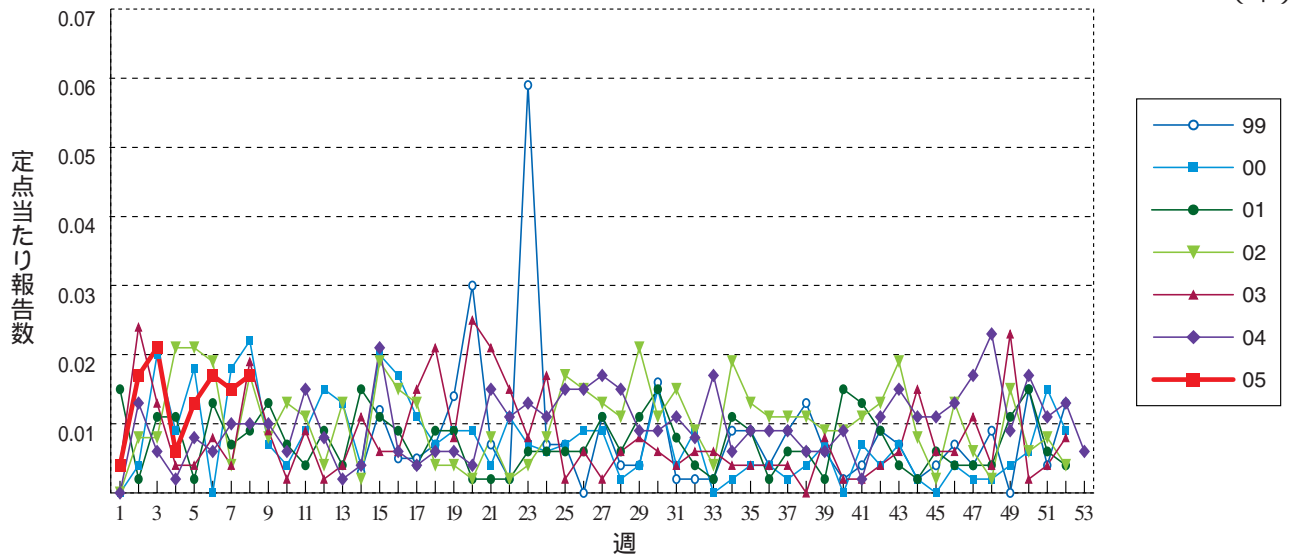


マイコプラズマ肺炎

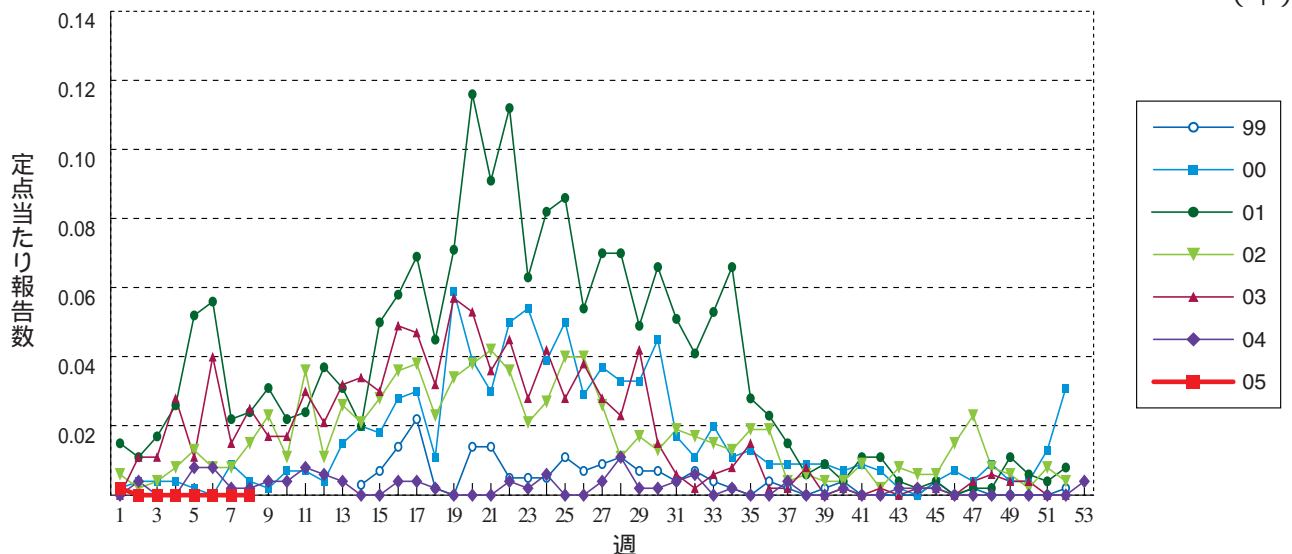
(年)



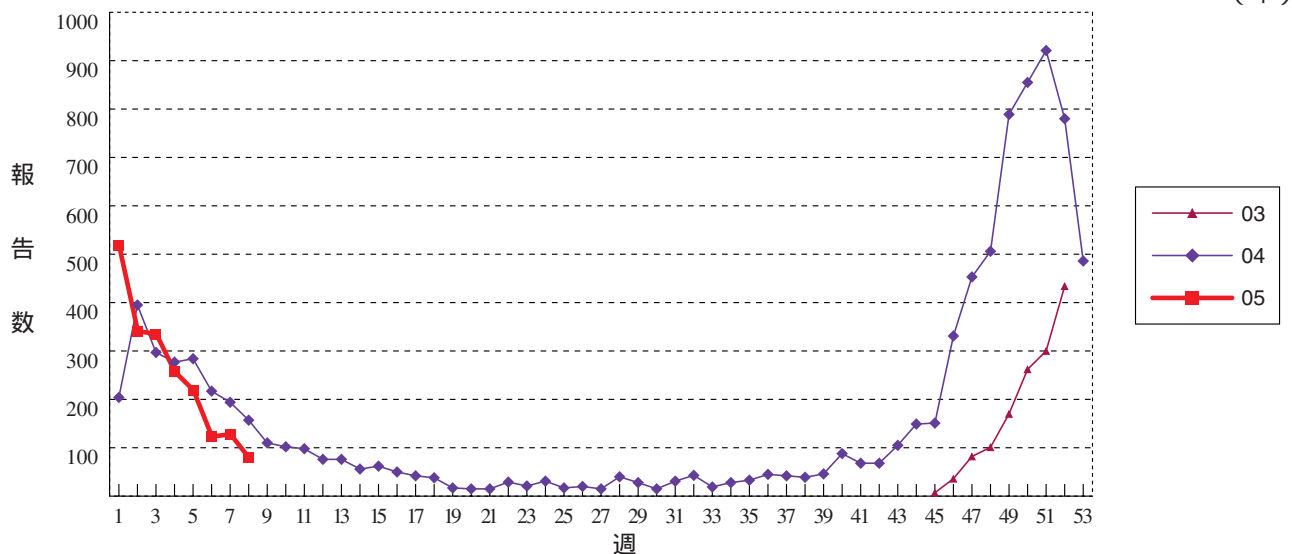
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)



成人麻疹



RSウイルス感染症 定ポイントあたり報告数ではなく、報告数を示しています。







### 8週のデータ

注)表中の報告数は3月2日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。  
表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

平成17年8週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		パラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	4	63	-	6	-	2	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	1	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	1	-	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	10	-	1	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年8週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	4	65	4	98	-	4	-	-	1	10	-	-	4	57
北海道	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
東京都	-	-	-	-	-	5	1	28	-	-	-	-	-	2	-	-	-	6
神奈川県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	6	-	9	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
三重県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	3	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	3	6
兵庫県	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	1	2	-	-	-	4
奈良県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	1	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
山口県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	1	7	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年8週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプトスボルジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	1	-	-	-	1	1	20	-	15	12	161	-	-	1	6	-	-
北海道	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	1	3	-	2	4	46	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	8	-	-	-	1	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	9	-	-	1	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	14	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	24	-	-	-	1	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年8週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		炭疽		つつが虫病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		梅毒		破傷風	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	1	-	-	-	-	-	20	1	4	-	-	-	-	3	71	-	8
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
東京都	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	15	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	12	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
山口県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年8週

	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発しんチフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	20
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
兵庫県	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
広島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年8週

	重症急性 呼吸器症候群		痘 そ う		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		高病原性鳥 インフルエンザ		サ ル 痘		ニバウイルス 感染症		ポツリヌス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	7	-	-	2	36	-	-	-	-	-	-	-	1
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年8週

	野 兎 病		リッサウイルス 感染症		レプトスピラ症		急性脳炎		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	1	1	27	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

全数把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正( 施行日: 平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照 )により、全数把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

表でみる「重症急性呼吸器症候群」以降の14の疾患は新システムでの追加疾患、および変更疾患(「乳児ボツリヌス症」「ボツリヌス症」「定点疾患「急性脳炎」全数疾患「急性脳炎」)です。「ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)」は平成14年11月に追加された疾患です。

旧システムにおける「ウイルス性肝炎」に含まれていた「E型肝炎」「A型肝炎」が独立した疾患となり、新システムにおける「ウイルス性肝炎」はE型肝炎、A型肝炎を除く肝炎となります。

注)表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成17年8週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	231596	49.19	469	0.15	4353	1.43	21051	6.90	5700	1.87	516	0.17	699	0.23	1673	0.55	16	0.01
北海道	12513	54.64	34	0.23	373	2.57	391	2.70	283	1.95	6	0.04	25	0.17	60	0.41	-	-
青森県	2437	37.49	3	0.07	68	1.62	168	4.00	61	1.45	13	0.31	9	0.21	21	0.50	-	-
岩手県	1938	31.26	-	-	28	0.76	267	7.22	47	1.27	3	0.08	9	0.24	20	0.54	-	-
宮城県	4420	44.65	10	0.16	112	1.84	747	12.25	119	1.95	17	0.28	30	0.49	45	0.74	-	-
秋田県	1823	33.15	8	0.23	74	2.11	256	7.31	40	1.14	1	0.03	6	0.17	20	0.57	2	0.06
山形県	2438	50.79	3	0.10	99	3.30	234	7.80	76	2.53	1	0.03	10	0.33	21	0.70	-	-
福島県	3926	49.08	9	0.19	53	1.10	519	10.81	70	1.46	10	0.21	25	0.52	39	0.81	-	-
茨城県	5926	49.80	8	0.11	87	1.18	251	3.39	106	1.43	4	0.05	11	0.15	22	0.30	-	-
栃木県	3089	44.13	-	-	50	1.09	182	3.96	44	0.96	8	0.17	11	0.24	19	0.41	-	-
群馬県	5616	56.16	2	0.03	92	1.48	327	5.27	93	1.50	7	0.11	6	0.10	29	0.47	-	-
埼玉県	13772	53.59	8	0.05	217	1.35	1156	7.18	254	1.58	19	0.12	27	0.17	93	0.58	-	-
千葉県	11217	52.66	11	0.08	181	1.35	771	5.75	246	1.84	20	0.15	25	0.19	74	0.55	1	0.01
東京都	6413	36.03	10	0.07	134	0.94	829	5.84	166	1.17	19	0.13	30	0.21	41	0.29	1	0.01
神奈川県	16891	50.42	36	0.17	267	1.30	1355	6.58	315	1.53	14	0.07	39	0.19	131	0.64	-	-
新潟県	7013	70.84	12	0.20	157	2.62	276	4.60	80	1.33	19	0.32	4	0.07	37	0.62	-	-
富山県	2417	50.35	1	0.03	49	1.69	350	12.07	55	1.90	9	0.31	11	0.38	19	0.66	-	-
石川県	3000	62.50	11	0.38	91	3.14	215	7.41	53	1.83	6	0.21	13	0.45	14	0.48	-	-
福井県	2121	68.42	11	0.52	33	1.57	422	20.10	36	1.71	-	-	3	0.14	9	0.43	-	-
山梨県	1190	29.02	-	-	67	2.68	105	4.20	18	0.72	2	0.08	11	0.44	7	0.28	-	-
長野県	6133	69.69	2	0.04	104	1.89	393	7.15	126	2.29	3	0.05	9	0.16	28	0.51	1	0.02
岐阜県	2883	34.32	15	0.28	54	1.02	194	3.66	45	0.85	4	0.08	3	0.06	19	0.36	-	-
静岡県	7368	53.78	6	0.07	125	1.45	788	9.16	165	1.92	11	0.13	12	0.14	50	0.58	-	-
愛知県	12493	64.07	37	0.20	172	0.95	1077	5.92	250	1.37	14	0.08	37	0.20	70	0.38	1	0.01
三重県	3736	51.18	15	0.33	46	1.02	473	10.51	86	1.91	6	0.13	4	0.09	27	0.60	1	0.02
滋賀県	2351	46.10	-	-	27	0.82	139	4.21	47	1.42	3	0.09	-	-	15	0.45	-	-
京都府	4631	38.27	1	0.01	51	0.68	396	5.28	124	1.65	14	0.19	7	0.09	31	0.41	-	-
大阪府	11009	38.36	22	0.11	288	1.45	1069	5.40	295	1.49	42	0.21	30	0.15	100	0.51	4	0.02
兵庫県	9642	49.19	19	0.15	143	1.12	1015	7.93	283	2.21	19	0.15	34	0.27	80	0.63	-	-
奈良県	1977	35.95	11	0.31	32	0.91	257	7.34	35	1.00	2	0.06	1	0.03	18	0.51	1	0.03
和歌山県	1856	37.12	3	0.10	24	0.77	218	7.03	92	2.97	13	0.42	7	0.23	24	0.77	-	-
鳥取県	996	34.34	1	0.05	32	1.68	162	8.53	28	1.47	3	0.16	-	-	13	0.68	-	-
島根県	1227	33.16	7	0.30	22	0.96	215	9.35	25	1.09	5	0.22	4	0.17	16	0.70	-	-
岡山県	3610	42.98	3	0.06	50	0.93	297	5.50	109	2.02	7	0.13	12	0.22	24	0.44	-	-
広島県	5187	43.23	22	0.29	80	1.07	635	8.47	94	1.25	11	0.15	12	0.16	37	0.49	-	-
山口県	4846	69.23	7	0.14	105	2.14	475	9.69	79	1.61	4	0.08	12	0.24	38	0.78	-	-
徳島県	1381	33.68	5	0.20	23	0.92	169	6.76	66	2.64	33	1.32	13	0.52	15	0.60	-	-
香川県	1767	34.65	3	0.09	32	1.00	285	8.91	60	1.88	19	0.59	6	0.19	19	0.59	-	-
愛媛県	2321	36.27	10	0.26	57	1.46	397	10.18	85	2.18	12	0.31	3	0.08	34	0.87	3	0.08
高知県	2780	56.73	3	0.10	71	2.29	141	4.55	64	2.06	7	0.23	5	0.16	10	0.32	-	-
福岡県	11617	58.67	19	0.16	218	1.82	1226	10.22	406	3.38	44	0.37	90	0.75	102	0.85	1	0.01
佐賀県	2284	65.26	4	0.17	47	2.04	109	4.74	71	3.09	6	0.26	20	0.87	28	1.22	-	-
長崎県	4030	59.26	7	0.16	52	1.18	347	7.89	102	2.32	1	0.02	6	0.14	24	0.55	-	-
熊本県	5017	62.71	20	0.42	68	1.42	442	9.21	110	2.29	4	0.08	10	0.21	28	0.58	-	-
大分県	2310	39.83	33	0.92	78	2.17	402	11.17	145	4.03	8	0.22	19	0.53	35	0.97	-	-
宮崎県	4269	72.36	11	0.31	57	1.58	443	12.31	135	3.75	18	0.50	5	0.14	31	0.86	-	-
鹿児島県	4342	46.69	6	0.11	44	0.79	394	7.04	209	3.73	17	0.30	31	0.55	27	0.48	-	-
沖縄県	1373	23.67	-	-	19	0.56	72	2.12	202	5.94	8	0.24	2	0.06	9	0.26	-	-



報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成17年8週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	20	0.01	138	0.05	9	0.00	2913	0.95	4	0.01	477	0.74	12	0.03	8	0.02	100	0.21
北海道	-	-	1	0.01	1	0.01	56	0.39	-	-	16	0.55	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	-	-	-	-	23	0.55	-	-	2	0.18	-	-	-	-	2	0.33
岩手県	-	-	1	0.03	-	-	8	0.22	-	-	5	0.42	-	-	-	-	2	0.10
宮城県	-	-	-	-	-	-	19	0.31	-	-	5	0.42	-	-	-	-	5	0.42
秋田県	-	-	-	-	-	-	4	0.11	-	-	3	0.43	-	-	-	-	6	0.86
山形県	-	-	-	-	-	-	22	0.73	-	-	2	0.25	-	-	-	-	7	0.70
福島県	-	-	-	-	-	-	26	0.54	-	-	11	0.92	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	25	0.34	-	-	23	1.44	-	-	-	-	6	0.55
栃木県	-	-	1	0.02	-	-	18	0.39	-	-	18	1.50	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	9	0.15	-	-	35	0.56	-	-	37	2.64	1	0.10	-	-	7	0.70
埼玉県	-	-	7	0.04	1	0.01	140	0.87	-	-	14	0.38	-	-	-	-	7	0.78
千葉県	2	0.01	2	0.01	-	-	141	1.05	2	0.06	22	0.63	1	0.11	-	-	-	-
東京都	-	-	6	0.04	-	-	97	0.68	-	-	15	1.07	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	4	0.02	1	0.00	-	-	171	0.83	-	-	53	1.26	1	0.08	-	-	-	-
新潟県	-	-	2	0.03	-	-	38	0.63	-	-	4	0.44	-	-	-	-	2	0.15
富山県	-	-	-	-	-	-	50	1.72	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
石川県	1	0.03	-	-	-	-	43	1.48	-	-	5	0.71	1	0.20	-	-	3	0.60
福井県	-	-	-	-	-	-	130	6.19	-	-	-	-	2	0.33	-	-	1	0.17
山梨県	-	-	3	0.12	-	-	12	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.10
長野県	-	-	-	-	-	-	42	0.76	-	-	7	0.64	-	-	-	-	4	0.36
岐阜県	1	0.02	1	0.02	-	-	75	1.42	-	-	8	0.67	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	1	0.01	91	1.06	-	-	9	0.45	-	-	-	-	2	0.20
愛知県	1	0.01	2	0.01	1	0.01	160	0.88	-	-	19	0.54	-	-	-	-	1	0.08
三重県	-	-	2	0.04	-	-	33	0.73	-	-	5	0.42	-	-	-	-	1	0.11
滋賀県	2	0.06	-	-	1	0.03	48	1.45	-	-	4	0.57	-	-	2	0.29	1	0.14
京都府	-	-	3	0.04	-	-	66	0.88	-	-	6	0.33	-	-	-	-	1	0.14
大阪府	3	0.02	6	0.03	3	0.02	151	0.76	-	-	13	0.25	1	0.07	1	0.07	1	0.07
兵庫県	-	-	3	0.02	1	0.01	65	0.51	1	0.03	20	0.57	-	-	-	-	4	0.33
奈良県	-	-	1	0.03	-	-	49	1.40	-	-	5	0.56	-	-	-	-	1	0.17
和歌山県	-	-	2	0.06	-	-	34	1.10	-	-	1	0.25	-	-	1	0.09	2	0.18
鳥取県	-	-	1	0.05	-	-	1	0.05	-	-	1	0.33	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	-	-	-	-	4	0.17	-	-	-	-	1	0.13	-	-	-	-
岡山県	-	-	11	0.20	-	-	33	0.61	-	-	19	1.58	-	-	-	-	3	0.60
広島県	1	0.01	4	0.05	-	-	91	1.21	-	-	26	1.30	-	-	1	0.05	3	0.16
山口県	-	-	4	0.08	-	-	52	1.06	-	-	4	0.44	-	-	-	-	15	1.67
徳島県	-	-	4	0.16	-	-	22	0.88	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	5	0.16	-	-	55	1.72	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	2	0.05	-	-	57	1.46	-	-	14	2.00	1	0.17	-	-	-	-
高知県	-	-	2	0.06	-	-	15	0.48	-	-	5	1.67	-	-	1	0.14	2	0.29
福岡県	-	-	12	0.10	-	-	308	2.57	1	0.04	17	0.65	-	-	1	0.07	2	0.13
佐賀県	-	-	3	0.13	-	-	64	2.78	-	-	-	-	-	-	-	-	5	0.71
長崎県	-	-	1	0.02	-	-	68	1.55	-	-	9	1.13	1	0.08	-	-	1	0.08
熊本県	1	0.02	26	0.54	-	-	109	2.27	-	-	11	1.22	1	0.07	1	0.07	-	-
大分県	-	-	1	0.03	-	-	27	0.75	-	-	2	0.40	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	7	0.19	-	-	58	1.61	-	-	14	3.50	1	0.14	-	-	-	-
鹿児島県	2	0.04	2	0.04	-	-	43	0.77	-	-	6	0.86	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	34	1.00	-	-	11	1.10	-	-	-	-	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成17年8週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症 報告数
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
総 数	8	0.02	-	-	79
北海道	-	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	4
岩手県	-	-	-	-	...
宮城県	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	1
山形県	1	0.10	-	-	1
福島県	-	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	...
栃木県	1	0.14	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-
千葉県	2	0.22	-	-	1
東京都	-	-	-	-	2
神奈川県	-	-	-	-	3
新潟県	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	...
石川県	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-
山梨県	3	0.30	-	-	2
長野県	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	4
愛知県	-	-	-	-	2
三重県	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	14
兵庫県	-	-	-	-	6
奈良県	-	-	-	-	...
和歌山県	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	7
山口県	-	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	...
愛媛県	-	-	-	-	4
高知県	-	-	-	-	8
福岡県	1	0.07	-	-	...
佐賀県	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	...
熊本県	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	...
宮崎県	-	-	-	-	...
鹿児島県	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	...

**定点把握疾患表注釈**

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正( 施行日:平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照 )により、定点把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

改正により「RSウイルス感染症」が追加されましたが、ゼロ報告も含めて報告自体がなされていない都道府県( ... )が多く見られ、その報告はまだ十分ではありません。そのため、「感染症週報」の情報還元としては、報告数のみの掲載とします。宜しく御理解ください。

## 獣医師が届出を行う感染症と対象動物

平成16年10月1日より感染症法に基づく獣医師が届出を行う感染症と対象動物が追加されました。  
\*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年8週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群*						細菌性赤痢		ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		犬		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-	-	-	1	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

感染症週報 第7巻 第8号 平成17年3月11日発行  
発行：国立感染症研究所  
厚生労働省健康局結核感染症課  
厚生労働省大臣官房統計情報部  
事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
T E L : 03-5285-1111  
F A X : 03-5285-1129  
U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>  
< 国立感染症研究所 感染症情報センター >  
<http://www.mhlw.go.jp/>  
< 厚生労働省 >  
<http://www.forth.go.jp/>  
< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。